

第27回 江東区政世論調査



スポーツと人情が熱いまち

江東区

江東区

令和7年(2025年)12月

1. 定住性
2. 防災対策
3. ごみ・リサイクル
4. 交通・まちづくり
5. 選挙
6. 区議会
7. 図書館
8. 環境・緑化
9. 公園
10. こども
11. シティプロモーション
12. 広報
13. DX・ICT
14. 男女共同参画
15. 施策への要望

笑顔あふれる江東区へ

本年4月、江東区は、今後5年間のまちづくりの羅針盤として、「江東区長期計画（後期）（令和7年度～令和11年度）」を策定し、区政運営の着実な推進に取り組んでいます。計画の最終年度である令和11年度には、本区の人口は55万人を超えると想定されています。またその先には、地下鉄8号線の延伸や区役所新庁舎建設が予定されるなど、本区のまちづくりは、さらに発展し続けていきます。

このような状況の中、多様な区民ニーズに適切に応え、「笑顔あふれる江東区」を実現するため、区では「区長への手紙」、「パブリックコメント」、「こうとう未来ミーティング」などを通じ、多くの区民の皆様のご意見をお聴きしています。

区政世論調査は、昭和48年から隔年で実施しており、今回で27回目となりました。調査結果については、今後の区政運営や施策立案の際の貴重な基礎資料として、活用してまいります。

今回の調査では、過去3回の調査で、区に最も力を入れてほしい施策に挙げられ、長期計画（後期）においても重要課題として設定した、「防災対策」に関する設問を拡充しました。また、シティプロモーション基本指針・生物多様性地域戦略の策定、こどもの権利に関する条例の制定といった、直近の区政の動きや取り組みを踏まえ、「江東区への愛着度」、「生物多様性の保全」、「こどもの権利」などを新しく調査項目として設けました。

毎回お伺いしている定住意向は、91.8%と前回を1.8ポイント上回りました。今後も高い定住意向に満足することなく、笑顔が広がる江東区の未来に向けて邁進してまいります。

結びに、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様に心から御礼を申し上げます。

令和7年12月

江東区長 大久保 朋果

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査内容	3
3 調査設計	4
4 回収結果	6
5 標本誤差	7
6 報告書の見方	8
7 調査設計及び回収結果の履歴一覧	10
第2章 調査回答者の属性	11
1 地区	13
2 性別	13
3 年齢	13
4 性別×年齢	14
5 国籍	14
6 職業	15
7 同居人の有無	15
8 住居形態	16
第3章 調査結果の概要	17
1 定住性	19
2 防災対策	22
3 ごみ・リサイクル	27
4 交通・まちづくり	29
5 選挙	33
6 区議会	36
7 図書館	37
8 環境・緑化	38
9 公園	41
10 こども	44
11 シティプロモーション	45
12 広報	48
13 DX・ICT	55
14 男女共同参画	60
15 施策への要望	61

目次

第4章 調査結果の分析	63
1 定住性	65
(1) 居住年数	67
(2) 定住・転出意向	70
(3) 定住意向理由	73
(4) 転出意向理由	76
2 防災対策	77
(1) 震災時の不安	79
(2) 大地震の際の防災対策への要望	84
(3) 大規模水害時の避難場所 新規	89
(4) 大規模水害の際の広域避難について 新規	91
(5) 大規模水害の際の防災対策への要望	93
(6) 家庭内で準備している防災用品・用具	95
3 ごみ・リサイクル	99
(1) ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいこと 新規	101
(2) 利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み 新規	106
(3) 食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと	109
4 交通・まちづくり	113
(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じることに	115
(2) 移動手段で重視するものに	118
(3) 沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり 新規	121
(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策	124
5 選挙	127
(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無	129
(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うものに	133
(3) 投票しなかった理由	135
(4) 「選挙公報」の閲読状況	137
6 区議会	139
(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況	141
(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体	144
7 図書館	147
(1) 区内図書館の利用頻度	149
(2) 図書館サービスへの要望	152
8 環境・緑化	155
(1) どんな時に、みどりがあつて良かったと感じるか	157
(2) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業	161
(3) 生物多様性の保全への関心 新規	166
(4) 参加したい自然環境や生きものの保全・回復に関連する活動 新規	169

9	公園	173
(1)	公園の利用頻度	175
(2)	公園を利用する主な目的	178
(3)	公園の遊具についての考え	181
(4)	公園整備のあり方についての考え	183
10	こども	187
(1)	「こどもの権利」の認知度 新規	189
11	シティプロモーション	193
(1)	江東区への愛着度 新規	195
(2)	江東区を人に勧めたいか 新規	197
(3)	江東区を良いまちにするために活動したいと思うか 新規	199
12	広報	201
(1)	区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体	203
(2)	区政情報の入手状況	207
(3)	充実させるべき区の情報発信の分野	209
(4)	「こうとう区報」の閲読状況	211
(5)	「江東ワイドスクエア」の視聴状況	213
(6)	「江東ワイドスクエア」の視聴頻度 新規	215
(7)	「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体	217
(8)	「江東ワイドスクエア」で興味のある内容	218
(9)	区政情報番組「ラジオこうとう」の視聴歴 新規	220
13	DX・ICT	221
(1)	インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況	223
(2)	情報通信機器で利用している機能やサービス	225
(3)	利用しているキャッシュレス決済	228
(4)	情報通信機器を利用していない理由	230
(5)	デジタル化を進めてほしい施策	232
14	男女共同参画	235
(1)	配偶者との家事の役割分担	237
15	施策への要望	239
(1)	力を入れてほしい施策	241

目 次

《巻末資料１》 クロス集計表 247

1	定住性	249
2	防災対策	252
3	ごみ・リサイクル	257
4	交通・まちづくり	260
5	選挙	264
6	区議会	268
7	図書館	270
8	環境・緑化	272
9	公園	277
10	こども	281
11	シティプロモーション	282
12	広報	285
13	DX・ICT	292
14	男女共同参画	297
15	施策への要望	298
16	フェイスシート	306

《巻末資料２》 調査票のサンプル 313

1	定住性	316
2	防災対策	317
3	ごみ・リサイクル	319
4	交通・まちづくり	320
5	選挙	321
6	区議会	322
7	図書館	322
8	環境・緑化	323
9	公園	324
10	こども	325
11	シティプロモーション	326
12	広報	326
13	DX・ICT	329
14	男女共同参画	331
15	施策への要望	332
16	フェイスシート	333

第1章 調査の概要

1 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

2 調査内容

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) ごみ・リサイクル
- (4) 交通・まちづくり
- (5) 選挙
- (6) 区議会
- (7) 図書館
- (8) 環境・緑化
- (9) 公園
- (10) こども
- (11) シティプロモーション
- (12) 広報
- (13) DX・ICT
- (14) 男女共同参画
- (15) 施策への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域：江東区全域
- (2) 調査対象：江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- (3) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの層化2段無作為抽出
※詳細な手順はページ下の「■ 標本抽出」の通り
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送・Web回収法
- (6) 調査期間：令和7年7月16日（水）～8月8日（金）
※調査は3週間かけて実施した。
- (7) 調査機関：株式会社ケー・デー・シー
- (8) 備考：調査の実施にあたっては、回収率向上のため、以下の①～④を行った。
 - ①区報（R7.7.1号）、および、区ホームページにて調査について周知した。
 - ②調査期間開始の約1週間前に、予告はがきを調査対象者あてに送付した。
 - ③調査についての情報を目の不自由な方（視覚障害者・高齢者）に伝えるため、調査票を送付する封筒に音声コードを印刷し、その位置を示す切り欠き加工を行った。
 - ④調査期間開始から約2週間経過後に、お礼（督促）はがきを調査対象者あてに送付した。

■ 標本抽出

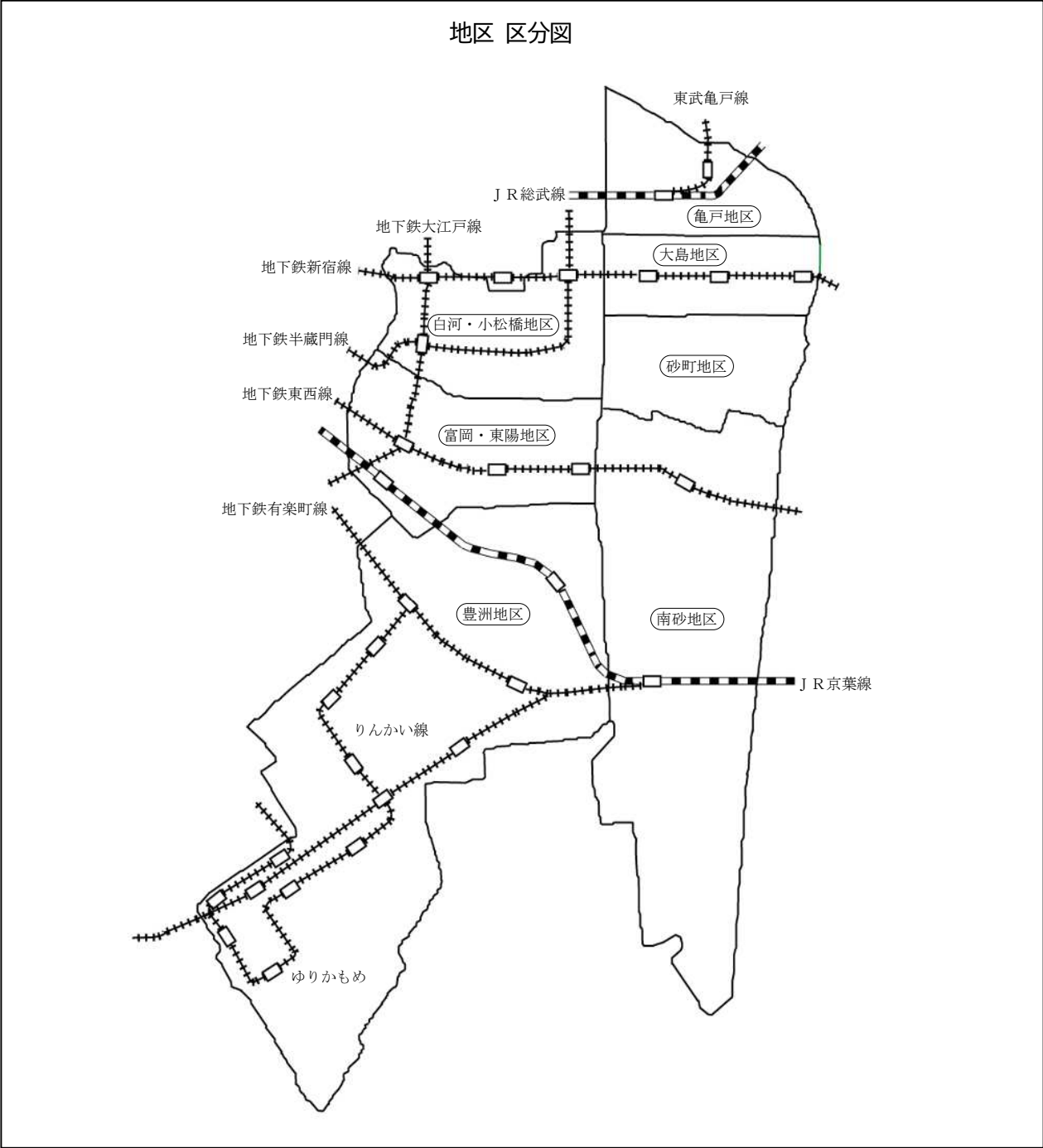
住民基本台帳からの層化2段無作為抽出

(i) 標本設計

- ①母集団：令和7年6月1日現在の江東区住民基本台帳上の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- ②地点数：150地点（1地点20人）
- ③標本数：3,000人（150地点×20人／1地点）

(ii) 標本抽出の手順の詳細

- ①層化：1又は2箇所の出張所（旧出張所を含む）の所管区域を単位として7地区に層化を行う。（次ページ参照）
- ②地点数配分：各地区の住民数に比例する形で、地点数150地点を配分する。
※住民数が多ければ、配分される地点数がそれに応じて多くなる。
- ③スタート地点：各地区のスタート地点を、3ケタのランダム数により決定する。
※仮に、大島地区における3ケタのランダム数が435であった場合、住民基本台帳上の435番目の方がスタート地点となる。
- ④地点当り人数：各地区ごとに、住民数と地点数に応じて、地点当り人数を定める。
※地点当り人数＝住民数÷地点数（小数点以下は切り捨て）
- ⑤地点抽出：各地区において、スタート地点を起点として、地点当り人数を地点数の数だけ足し合わせていくことで、地点を抽出する。
※1地点目：スタート地点、2地点目：スタート地点＋地点当り人数、3地点目：スタート地点＋地点当り人数×2、...
- ⑥対象者抽出：抽出された各地点より、1地点当り20人の調査対象者を抽出する。
※15人間隔での抽出を20回繰り返すことで20人を抽出する。



地区・地名等 対応表

	地区	地名等
1	白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
2	富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目1番1～5号・5～7番、新砂1丁目1番
3	豊洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海、海の森
4	亀戸	亀戸
5	大島	大島
6	砂町	北砂、南砂1・5丁目、南砂2丁目24～34番、東砂1～5丁目
7	南砂	東砂6～8丁目、南砂2丁目（1番1～5号・5～7番・24～34番を除く）・3・4・6・7丁目、新砂1丁目（1番を除く）・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※令和7年6月1日現在

4 回収結果

- (1) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
 (2) 回収数：1,461人（郵送回収：968人、Web回収：493人）
 (3) 回収率：48.7%

回収結果内訳（地区／性別／年齢／性別×年齢）

			住民数 (18 歳以上) ※R7.6.1 現在		標本数 (調査対象者数) A		回収数 B		回収率 C=B/A
				構成比		構成比		構成比	
合計			467,011	100.0%	3,000	100.0%	1,461	100.0%	48.7%
地区	白河・小松橋		75,513	16.4%	500	16.7%	231	15.8%	46.2%
	富岡・東陽		69,308	14.8%	440	14.7%	209	14.3%	47.5%
	豊洲		101,454	21.7%	660	22.0%	306	20.9%	46.4%
	亀戸		56,781	12.2%	360	12.0%	188	12.9%	52.2%
	大島		56,837	12.2%	360	12.0%	172	11.8%	47.8%
	砂町		66,398	14.2%	420	14.0%	219	15.0%	52.1%
	南砂		39,720	8.5%	260	8.7%	106	7.3%	40.8%
	(無回答)		—	—	—	—	30	2.1%	—
性別	男性		227,549	48.7%	1,447	48.2%	640	43.8%	44.2%
	女性		239,462	51.3%	1,553	51.8%	797	54.6%	51.3%
	その他		—	—	—	—	7	0.5%	—
	(無回答)		—	—	—	—	17	1.2%	—
年齢	18～29 歳		78,315	16.8%	511	17.0%	137	9.4%	26.8%
	30～39 歳		76,292	16.3%	523	17.4%	207	14.2%	39.6%
	40～49 歳		84,365	18.1%	539	18.0%	260	17.8%	48.2%
	50～59 歳		86,651	18.6%	507	16.9%	274	18.8%	54.0%
	60～69 歳		51,913	11.1%	322	10.7%	230	15.7%	71.4%
	70 歳以上		89,475	19.2%	598	19.9%	335	22.9%	56.0%
	(無回答)		—	—	—	—	18	1.2%	—
性別×年齢	男性	18～29 歳	39,780	17.5%	251	17.3%	60	9.4%	23.9%
		30～39 歳	37,865	16.6%	251	17.3%	85	13.3%	33.9%
		40～49 歳	42,540	18.7%	288	19.9%	131	20.5%	45.5%
		50～59 歳	44,053	19.4%	270	18.7%	125	19.5%	46.3%
		60～69 歳	25,914	11.4%	153	10.6%	98	15.3%	64.1%
		70 歳以上	37,397	16.4%	234	16.2%	138	21.6%	59.0%
		(無回答)	—	—	—	0.0%	3	0.5%	—
	女性	18～29 歳	38,535	16.1%	260	16.7%	76	9.5%	29.2%
		30～39 歳	38,427	16.1%	272	17.5%	122	15.3%	44.9%
		40～49 歳	41,825	17.5%	251	16.2%	126	15.8%	50.2%
		50～59 歳	42,598	17.8%	237	15.3%	149	18.7%	62.9%
		60～69 歳	25,999	10.9%	169	10.9%	127	15.9%	75.1%
		70 歳以上	52,078	21.8%	364	23.4%	196	24.6%	53.8%
		(無回答)	—	—	—	0.0%	1	0.1%	—

※本調査は区政運営や施策立案の基礎資料とするため、分析上の必要性から、「ジェンダー統計の観点からの性別欄の基本的な考え方について」（令和4年9月内閣府男女共同参画局）に基づき、性別情報を取得している。

5 標本誤差

標本誤差とは・・・

今回の調査では、令和7年6月1日における江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）502,012人から、3,000人を抽出して標本調査を行った。

本調査の様に、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体（母集団）を対象に行った調査に比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差という。

標本誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、数学的に計算することが可能である。なお、標本誤差は①比率算出の基礎（回答者数）〔n〕および②回答の比率（%）〔P〕によっても異なる。標本誤差の計算式および第27回江東区政世論調査における標本誤差については以下のとおり。

標本誤差の計算式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数（江東区の満18歳以上の人口）
n = 比率算出の基礎（回答者数）
P = 回答の比率（%）

第27回江東区政世論調査における標本誤差

基礎 (回答者数)[n] \ 回答の比率[P]	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,461	± 2.2%	± 3.0%	± 3.4%	± 3.6%	± 3.7%
1,000	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	±10.0%
100	± 8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

※表の見方：例えば、問2の回答者数が1,461人で、江東区に「ずっと住みたい（住むつもり）」と回答した割合が53.3%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.7%以内（49.6%～57.0%）である」と見る事が出来る。≪基礎（回答者数）〔n〕が1,461、回答の比率〔P〕が50%前後においては、標本誤差は、±3.7%のため。≫

※表は、 $\left(\frac{N-n}{N-1} \div 1 \right)$ として算出した。

6 報告書の見方

(1) 集計

(i) 集計方法

集計は、「①単純集計」と「②クロス集計」の2種類を行った。

①単純集計

設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

②クロス集計

回答者の属性（地区など）と各設問を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

(ii) クロス集計項目

クロス集計を行う項目については、フェイスシート関連8項目および、それに準ずる設問として2項目、計10項目を採用した。

①地区（F1）、②性別（F2）、③年齢（F3）、④性別×年齢（F2×F3）

⑤国籍（F4）、⑥職業（F5）、⑦同居人の有無（F6）、⑧住居形態（F7）

⑨居住年数（問1）、⑩定住・転出意向（問2）

(iii) クロス集計表

《巻末資料1》クロス集計表には、上記の10項目（①～⑩）を基本分類軸として掲載した。また、《巻末資料1》クロス集計表および本編中のクロス集計結果のグラフや表の分類軸は、無回答を省いたものを掲載している。

(2) 回答率（％）

(i) 回答率（％）の表記

回答率（％）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位を算出したものを使用した。

(ii) 単一回答の設問

上記の（i）により、単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問において、すべての選択肢の回答率を合計しても100%に満たない、または上回る場合がある。

(iii) 複数の回答の合計値

2つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率（％）を表記する場合、その回答率（％）は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率（％）を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。

(iv) 回答率（％）の比較

回答率（％）の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

回答率の合計が100%にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率(小数点第2位)	四捨五入後の回答率(小数点第1位)
選択肢A	50.15%	50.2%
選択肢B	39.85%	39.9%
選択肢C	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

90.00% = 90.0%

90.1%

100%にならない

四捨五入前の回答率の合計と一致しない

(3) 割合の表現

数値を考察するにあたり、割合の表現は以下の表の通りとしている。

区分	詳細		表現
0.0%～9.9%	0.0%の場合		記述せず
	0.1%以上で、5.0%には満たない場合		わずか
	5.0%以上で、10.0%には満たない場合		1割未満
10.0%～100.0%	1の位と小数点第1位が、 右記の場合	0.0～0.4%	○割
		0.5～0.9%	ほぼ○割
		1.0～3.9%	○割を超え
		4.0～6.4%	○割台半ば
		6.5～8.9%	○割近く
		9.0～9.4%	ほぼ○割
		9.5～9.9%	○割
まとめる場合	同じ%台をまとめる場合(※1)		○割台
	2つの前後の%にまたがる場合(※2)		○割前後
	2つの後の%台にまたがる場合(※3)		○割以上

※1～3の具体例および表現例は以下の通り。

(※1) 71.2%と76.8%であれば、7割台

(※2) 69.3%と71.2%であれば、7割前後

(※3) 71.2%と83.4%であれば、7割以上

(4) 文章の一部省略および語句の簡略化

(i) 「第3章 調査結果の概要」における、設問の回答ルール案内文の取り扱い

①単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略している。

（省略した案内文の例：次の中から1つだけ選んでください。）

②複数回答（選択肢を複数選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略した上で、複数回答の設問である旨を明示している。

（省略した案内文の例：次の中から2つまで選んでください。）

（複数回答の設問である旨の明示の例：（複数回答）※2つまで）

(ii) 「第4章 調査結果の分析」「〈巻末資料1〉クロス集計表」における、
設問文や選択肢の取り扱い

①設問文や選択肢を表において記述する場合、適宜、文章の一部省略や語句の簡略化を行っている。

7 調査設計及び回収結果の履歴一覧

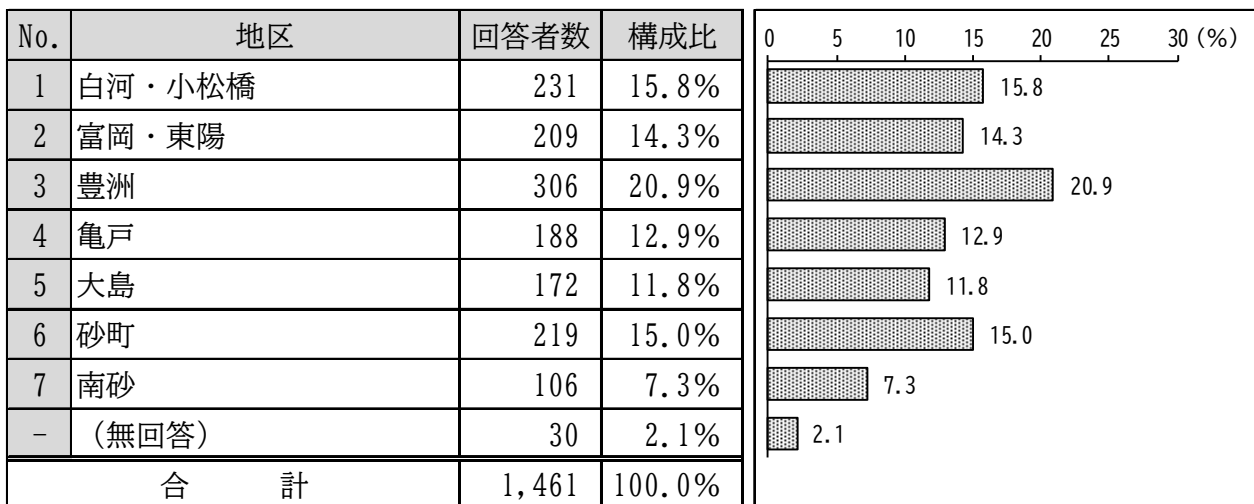
第1回（昭和48年度）から第27回（令和7年度）までの調査設計及び回収結果の履歴一覧は、以下のとおり。本報告書の一部の設問において、過年度比較を行っている。比較を行うにあたっては、調査設計の違い等について留意する必要がある。

調査設計及び回収結果の履歴一覧

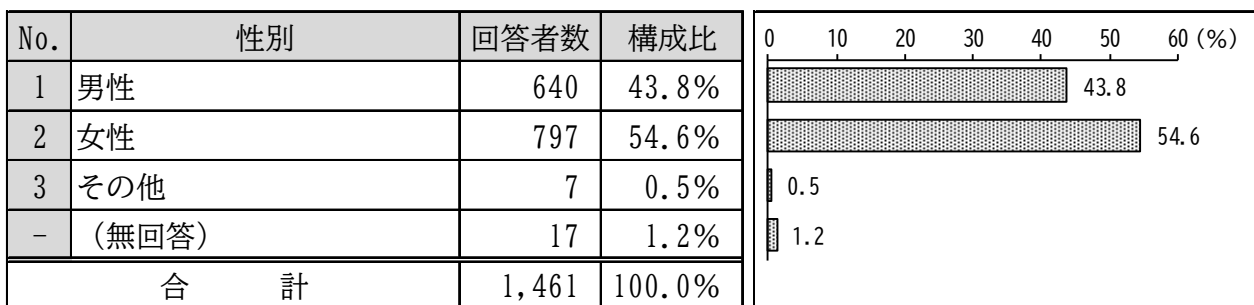
回数	実施年度	調査対象年齢	調査方法	調査対象者	回答数	回答率
1	昭和48年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
2	昭和50年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	827	82.7%
3	昭和52年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	815	81.5%
4	昭和54年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	791	79.1%
5	昭和56年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
6	昭和58年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	990	82.5%
7	昭和60年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	976	81.3%
8	昭和62年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	938	78.2%
9	平成元年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	914	76.2%
10	平成3年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,027	85.6%
11	平成5年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,024	85.3%
12	平成7年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	994	82.8%
13	平成9年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	954	79.5%
14	平成11年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	931	77.6%
15	平成13年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	947	78.9%
16	平成15年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	951	79.3%
17	平成17年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,017	84.8%
18	平成19年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	935	77.9%
19	平成21年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	899	74.9%
20	平成23年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	904	75.3%
21	平成25年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	906	75.5%
22	平成27年	20歳以上	個別面接聴取法	1,500人	1,061	70.7%
23	平成29年	18歳以上	個別面接聴取法	1,500人	980	65.3%
24	令和元年	18歳以上	郵送配布－郵送回収法	3,000人	1,668	55.6%
25	令和3年	18歳以上	郵送配布－郵送・Web回収法	3,000人	1,661	55.4%
26	令和5年	18歳以上	郵送配布－郵送・Web回収法	3,000人	1,534	51.1%
27	令和7年	18歳以上	郵送配布－郵送・Web回収法	3,000人	1,461	48.7%

第2章 調査回答者の属性

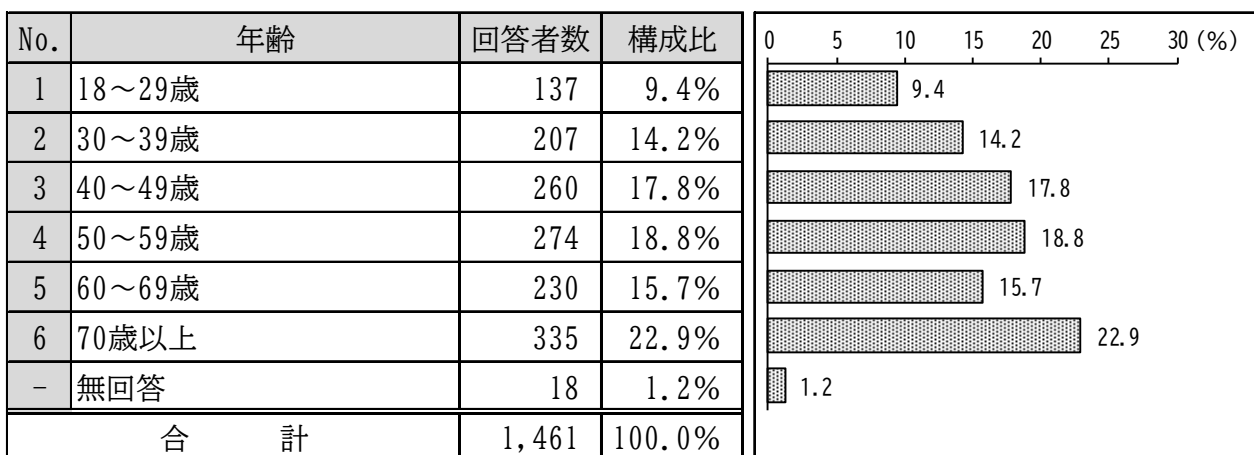
1 地区



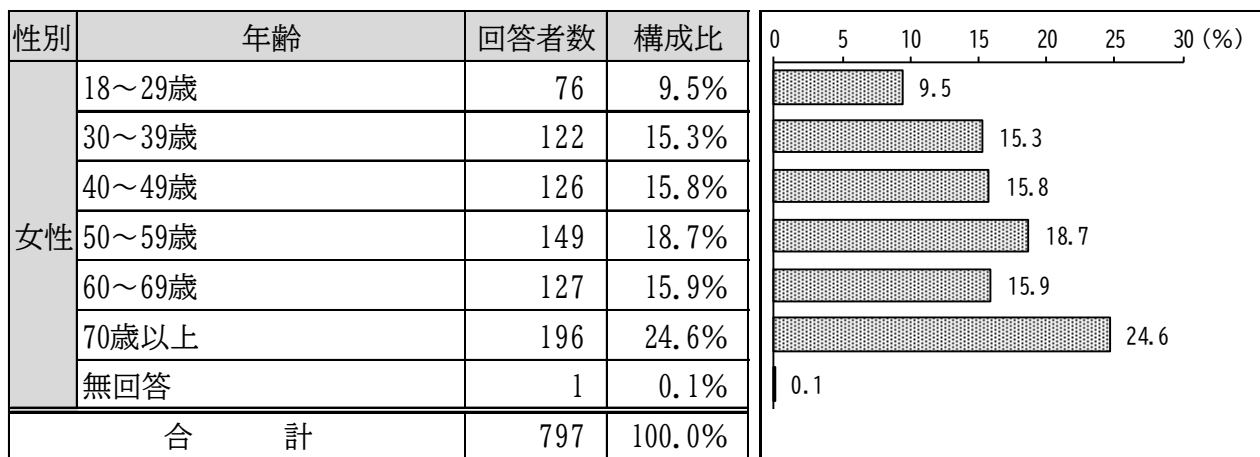
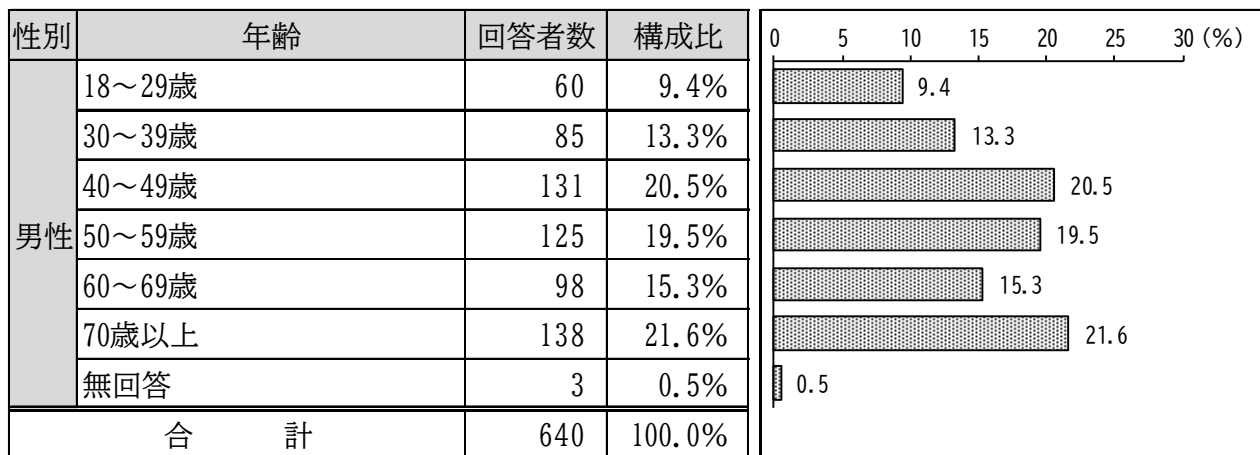
2 性別



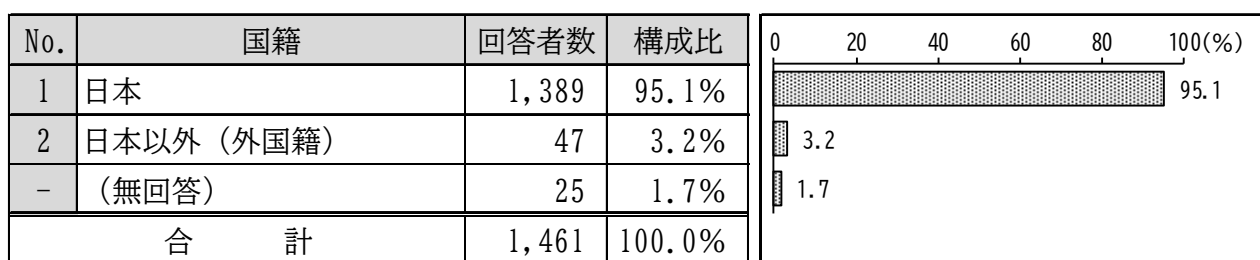
3 年齢



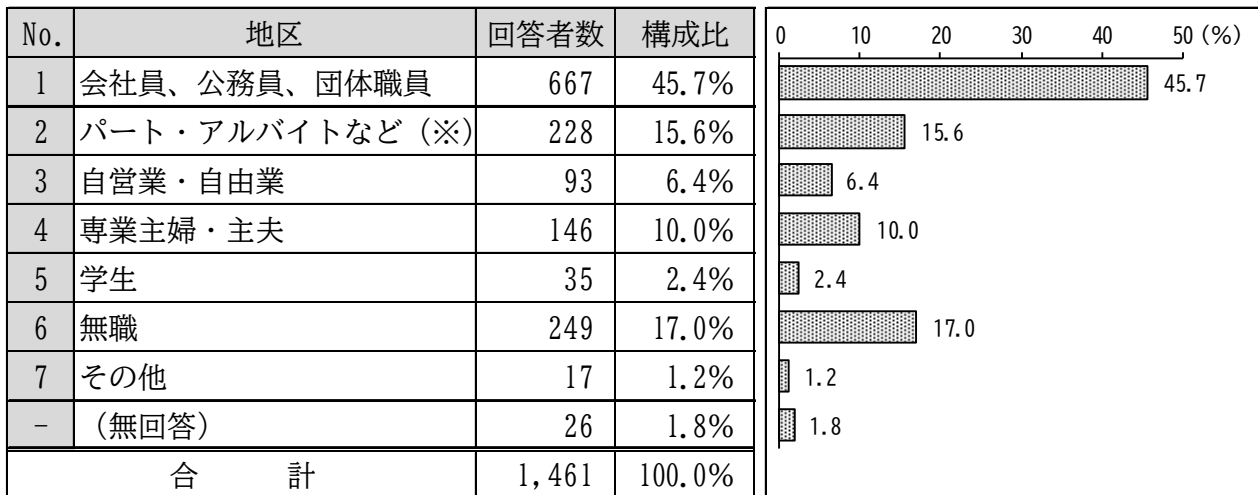
4 性別×年齢



5 国籍

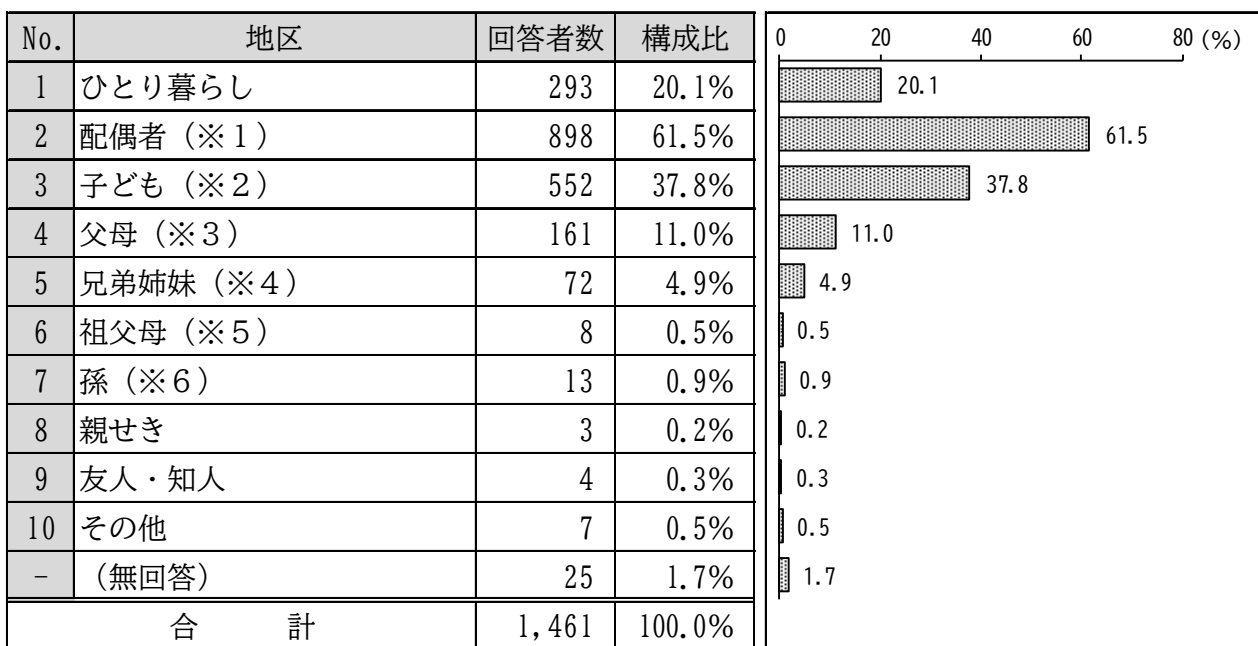


6 職業



※「パート・アルバイトなど」は非常勤・嘱託・派遣などを含む。

7 同居人の有無（複数回答可）



※1「2 配偶者」は、事実婚、同棲しているパートナーを含む。

※2「3 子ども」は、嫁・婿など子どもの配偶者を含む。

※3「4 父母」は、義理の父母を含む。

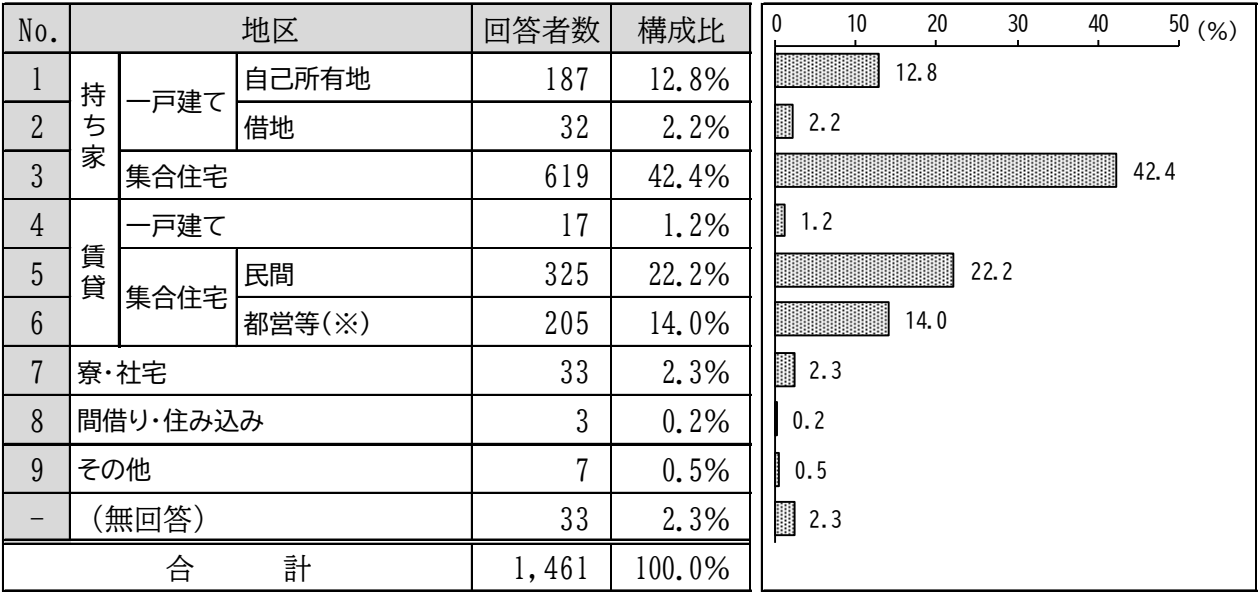
※4「5 兄弟姉妹」は、義理の兄弟姉妹を含む。

※5「6 祖父母」は、義理の祖父母を含む。

※6「7 孫」は、孫の配偶者を含む。

8 住居形態

第2章
調査回答者の属性



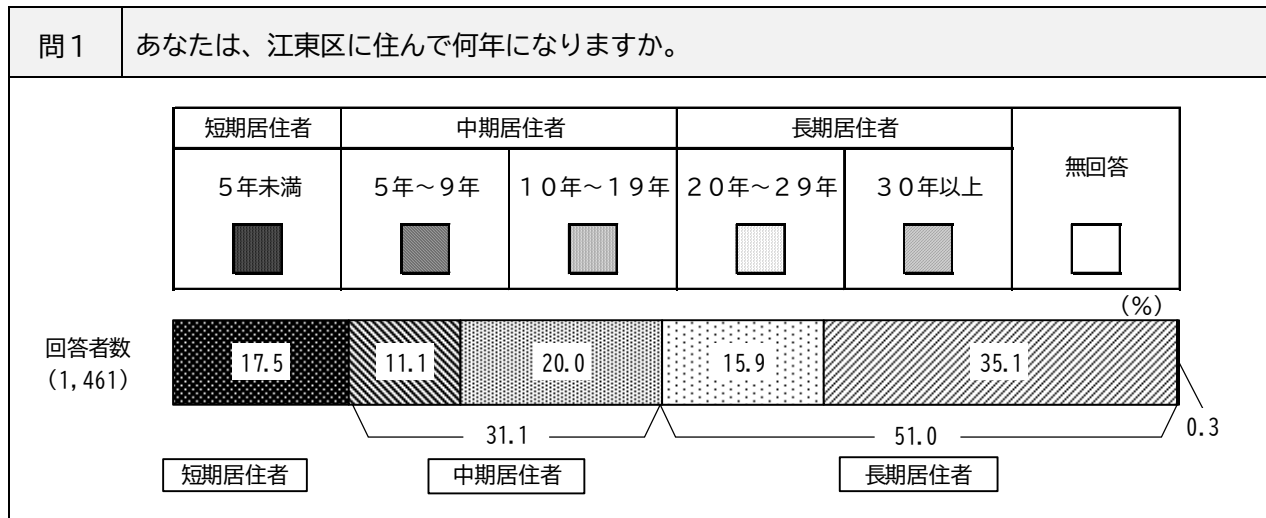
※「都営等」は、都営のほか、UR・J K K・区営を含む。

第3章 調査結果の概要

1 定住性

(1) 居住年数

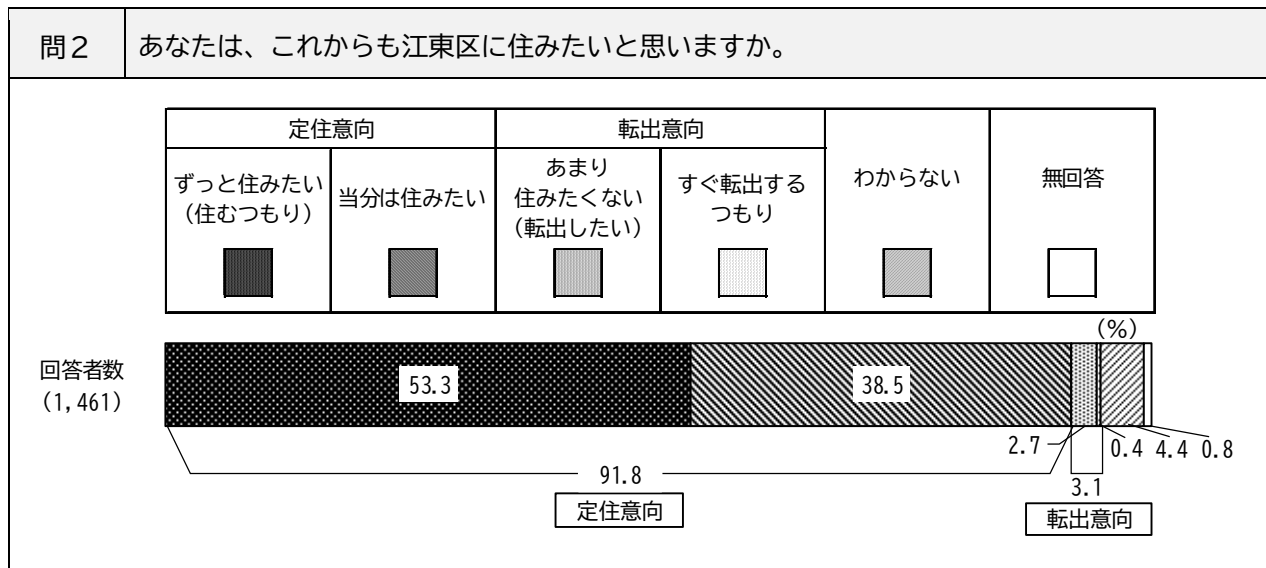
◇「長期居住者」は5割を超える



○居住年数については、「20～29年」（15.9%）と「30年以上」（35.1%）の2つを合わせた「長期居住者」（51.0%）が5割を超えている。

(2) 定住・転出意向

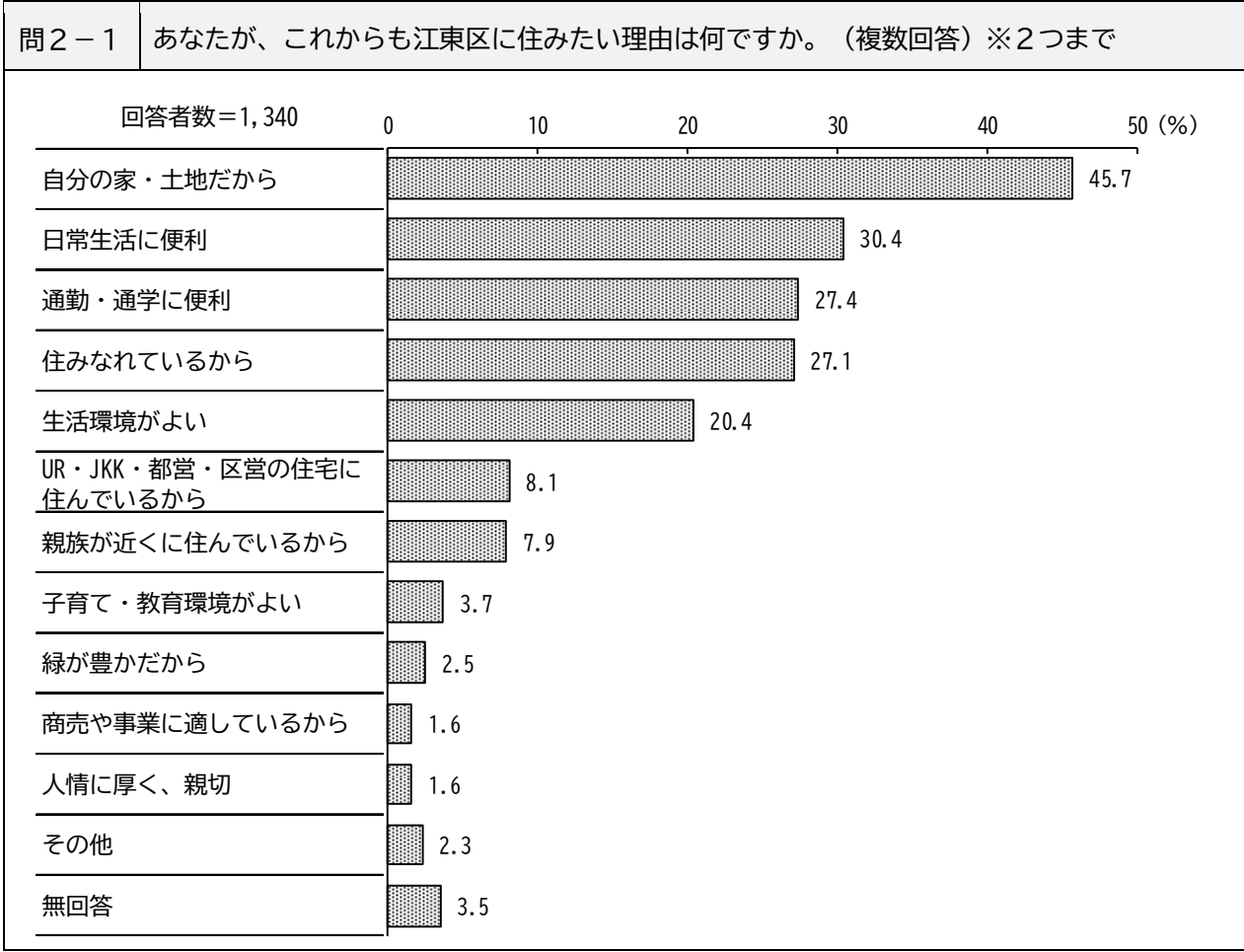
◇「定住意向」は9割を超える



○定住・転出意向については、「ずっと住みたい（住むつもり）」（53.3%）と「当分は住みたい」（38.5%）の2つを合わせた「定住意向」（91.8%）は9割を超えている。

(3) 定住意向理由

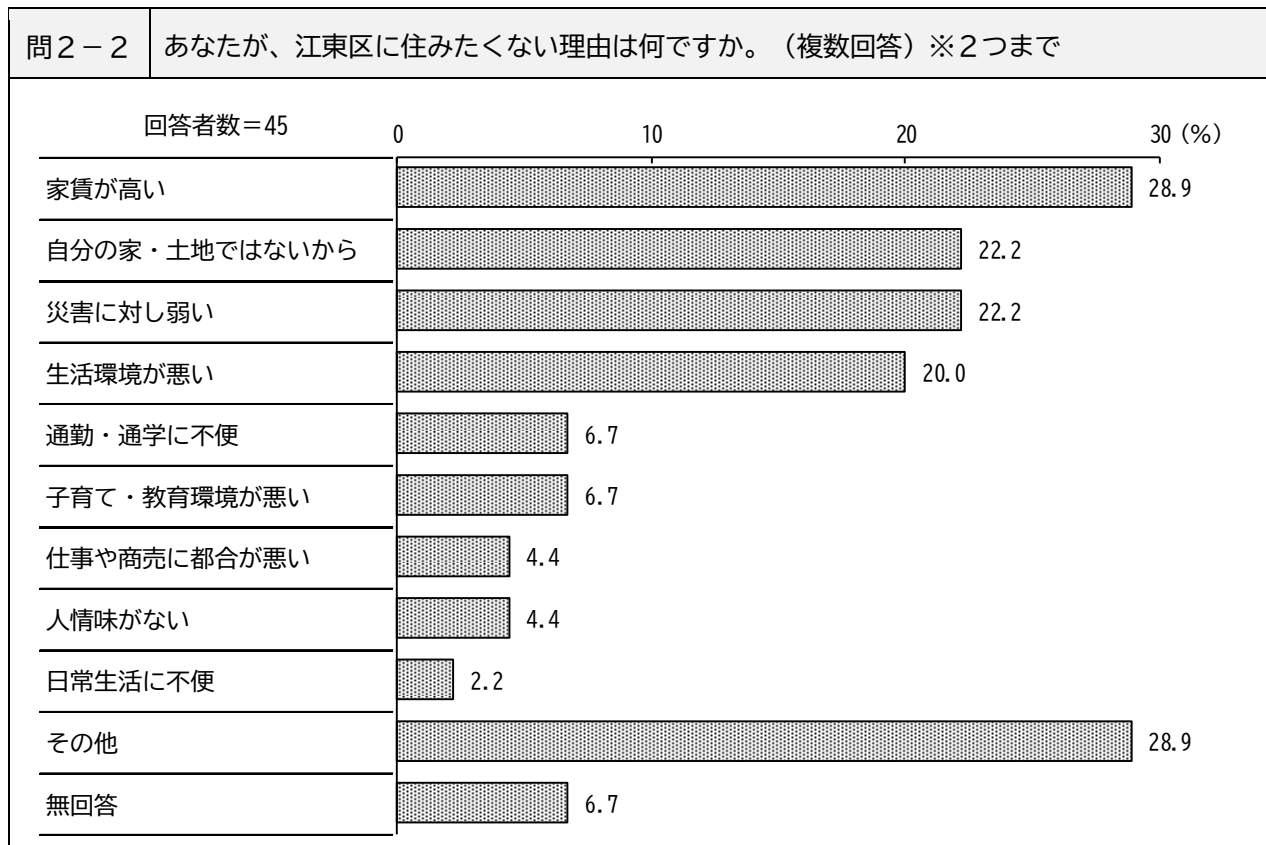
◇「自分の家・土地だから」が4割台半ば



○定住意向理由については、「自分の家・土地だから」（45.7％）が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」（30.4％）、「通勤・通学に便利」（27.4％）と続いている。

(4) 転出意向理由

◇「家賃が高い」が3割近く

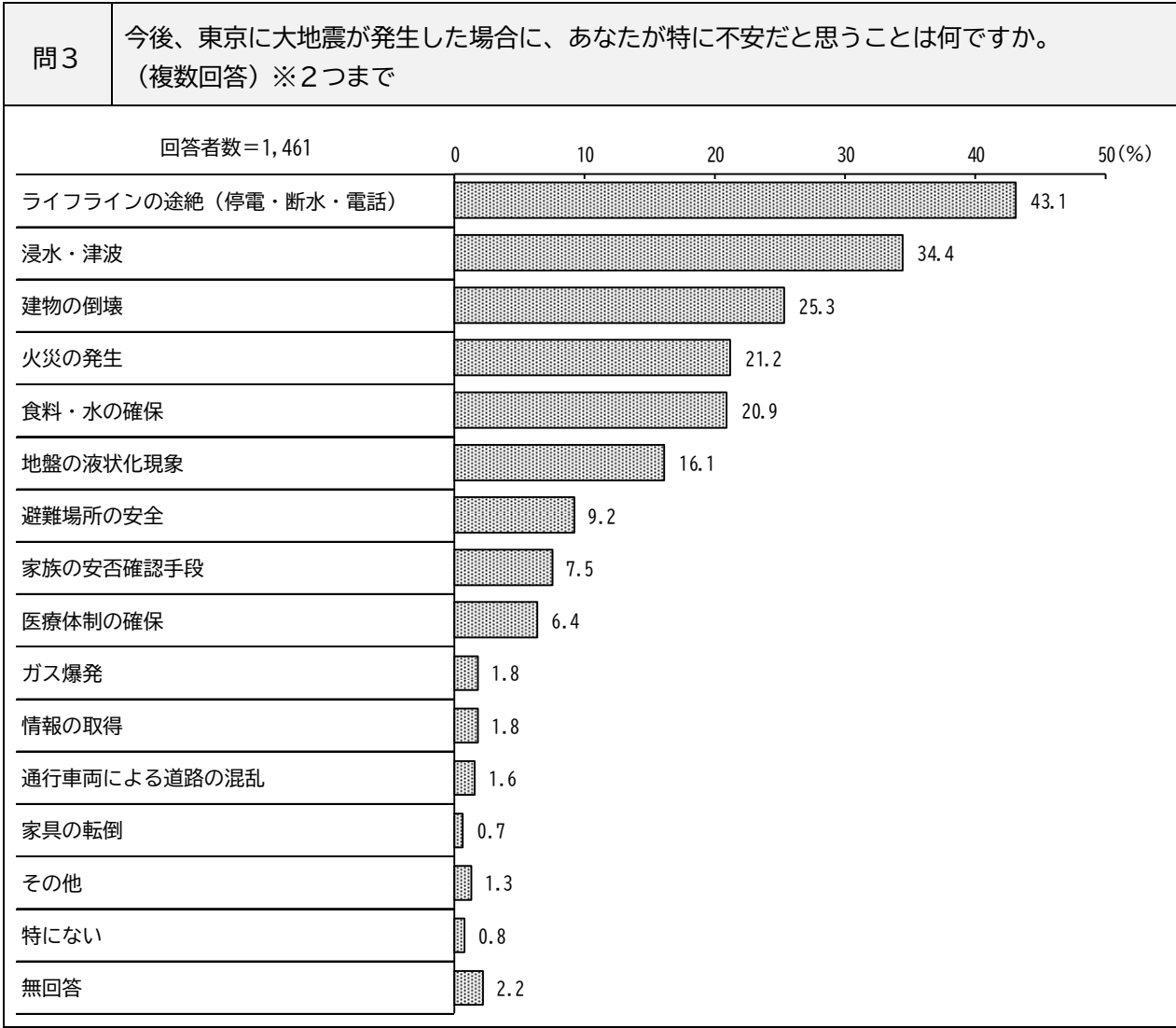


○転出意向理由としては、「家賃が高い」(28.9%)が3割近くで最も多く、次いで「自分の家・土地ではないから」(22.2%)、「災害に対し弱い」(22.2%)、「生活環境が悪い」(20.0%)と続いている。

2 防災対策

(1) 震災時の不安

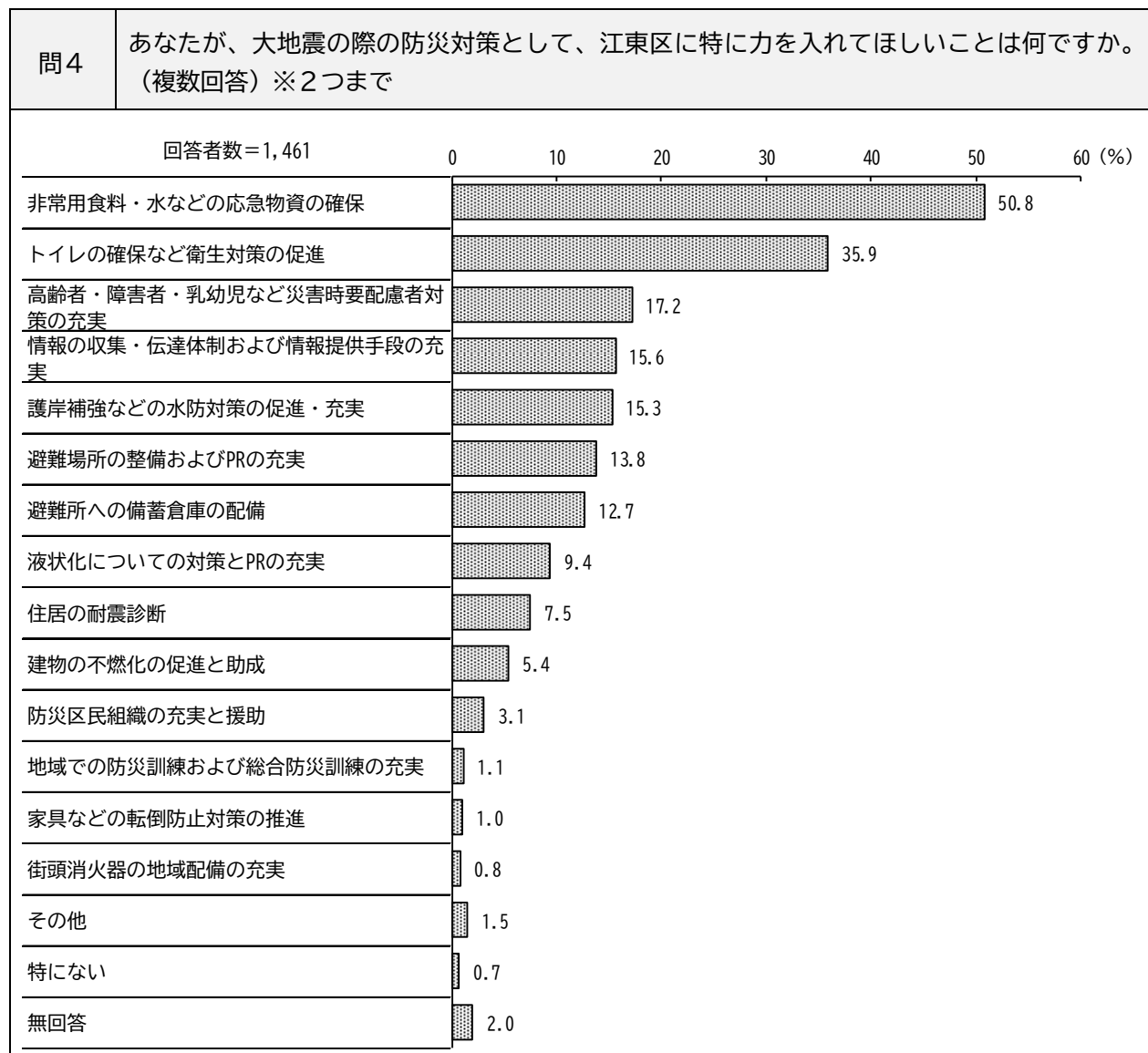
◇「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」が4割を超える



○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「ライフラインの途絶（停電・断水・電話）」（43.1%）が4割を超えて最も多く、次いで「浸水・津波」（34.4%）、「建物の倒壊」（25.3%）と続いている。

(2) 大地震の際の防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」がほぼ5割

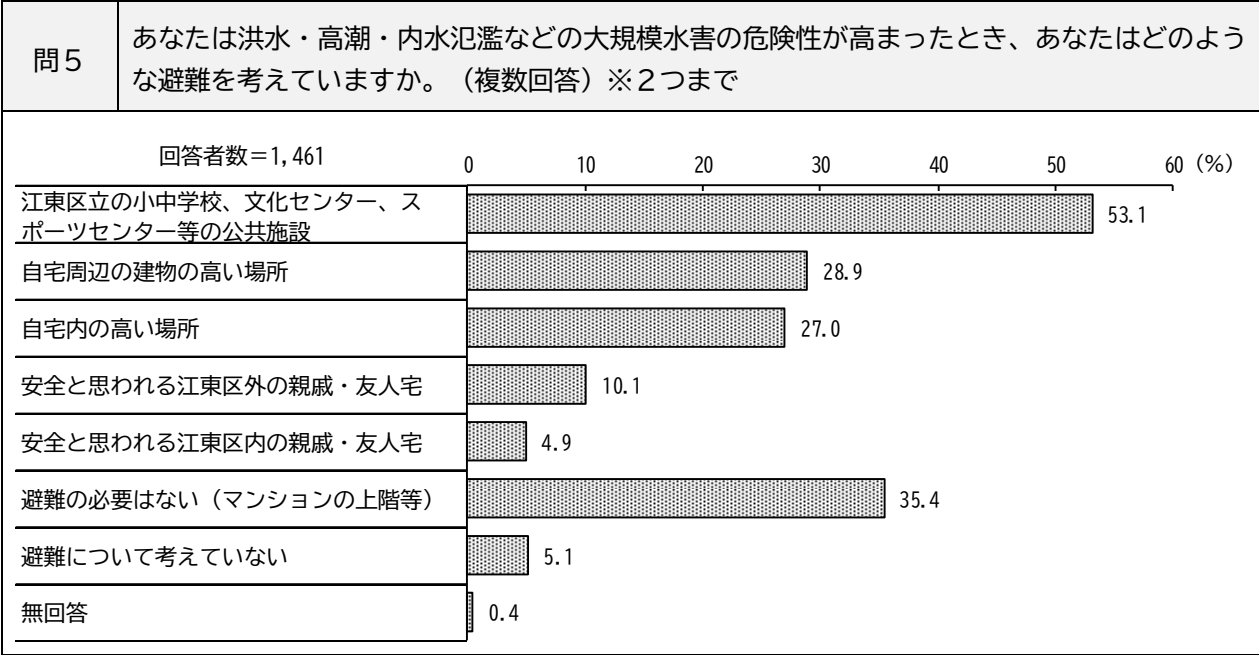


○大地震の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(50.8%)がほぼ5割で最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(35.9%)、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」(17.2%)と続いている。

(3) 大規模水害時の避難場所

新規

◇「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」が5割を超える

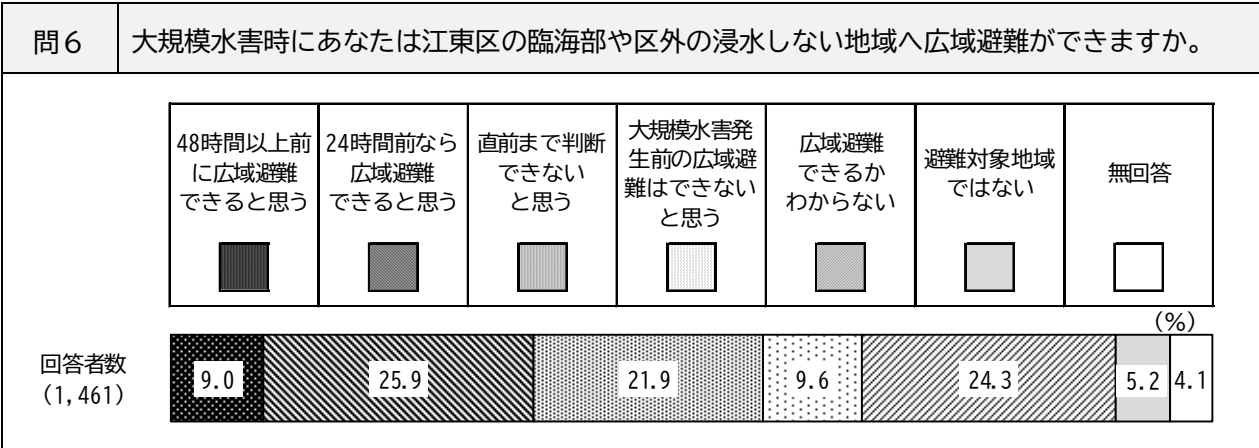


○洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の危険性が高まったときの避難について聞いたところ、「江東区立の小中学校、文化センター、スポーツセンター等の公共施設」（53.1%）が5割を超えて最も多く、次いで「自宅周辺の建物の高い場所」（28.9%）、「自宅内の高い場所」（27.0%）と続いている。

(4) 大規模水害の際の広域避難について

新規

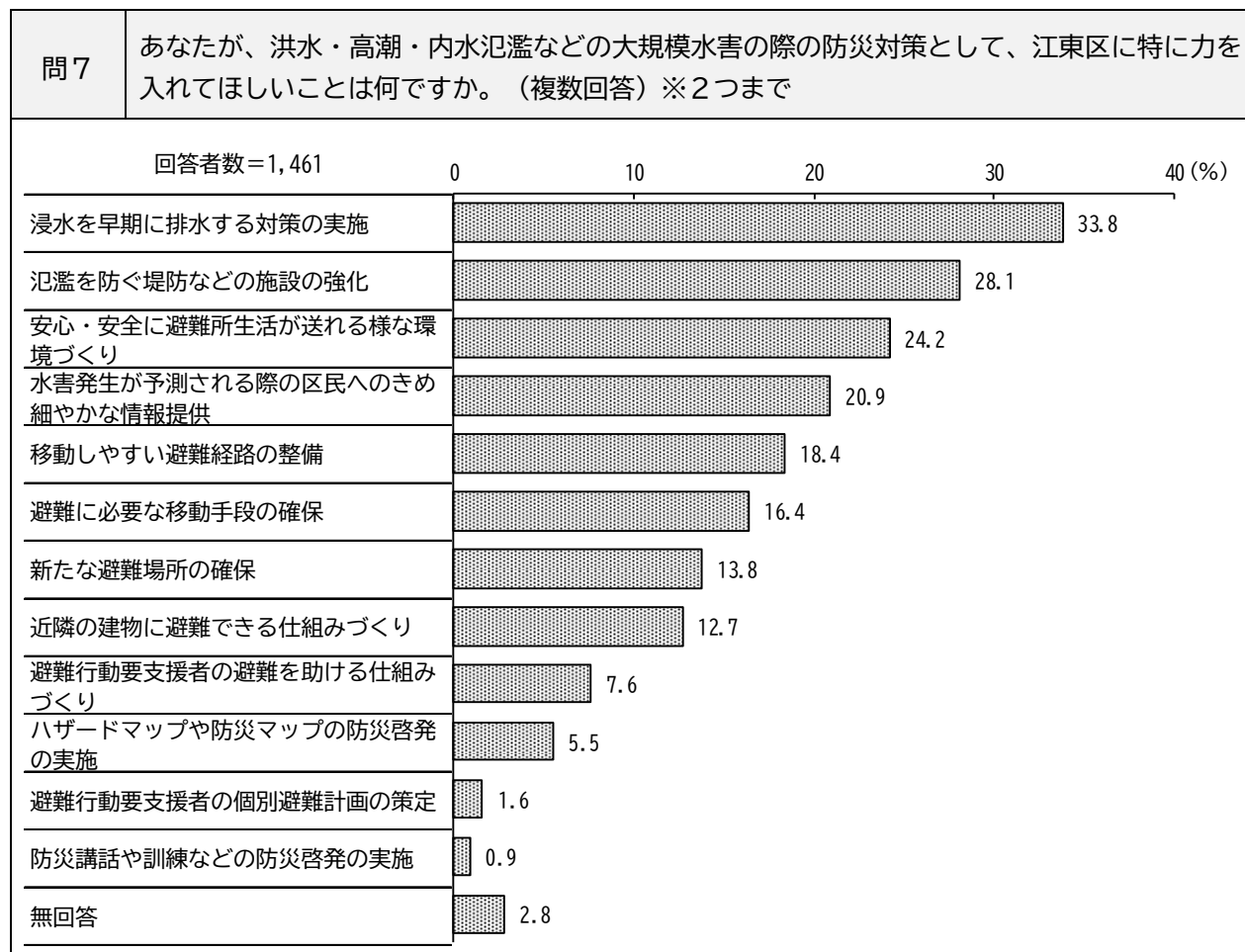
◇「24 時間前なら広域避難できると思う」が2割台半ば



○大規模水害時にあなたは江東区の臨海部や区外の浸水しない地域へ広域避難ができるか聞いたところ、「24 時間前なら広域避難できると思う」（25.9%）が2割台半ばで最も多く、次いで「広域避難できるかわからない」（24.3%）、「直前まで判断できないと思う」（21.9%）と続いている。

(5) 大規模水害の際の防災対策への要望

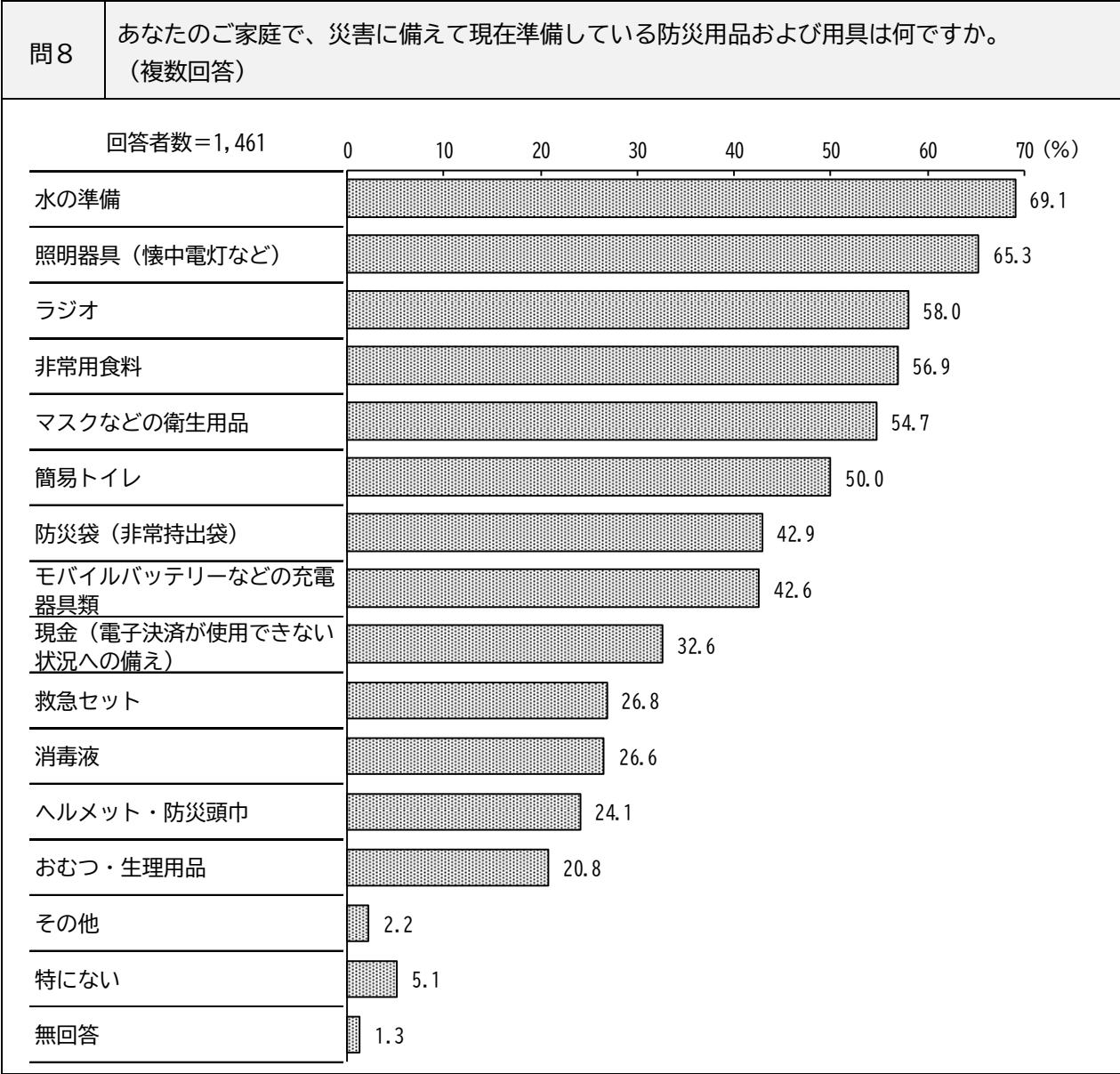
◇「浸水を早期に排水する対策の実施」が3割を超える



○洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「浸水を早期に排水する対策の実施」（33.8%）が3割を超えて最も多く、次いで「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」（28.1%）、「安心・安全に避難所生活が送れる様な環境づくり」（24.2%）と続いている。

(6) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「水の準備」がほぼ7割



○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「水の準備」(69.1%)がほぼ7割と最も多く、次いで「照明器具(懐中電灯など)」(65.3%)、「ラジオ」(58.0%)と続いている。

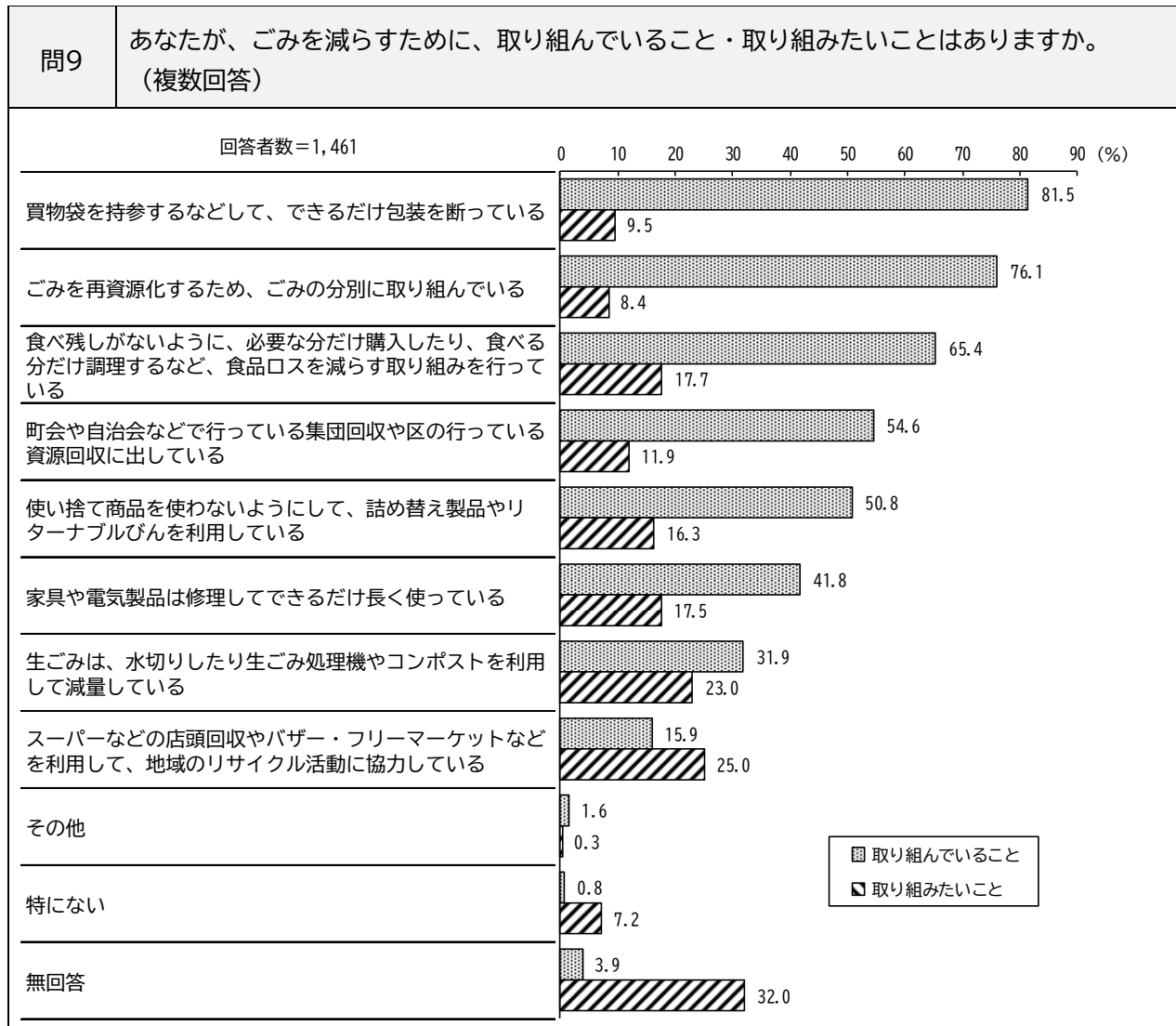
3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいこと

新規

◇取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が8割を超える

◇取り組みたいことでは、「スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している」が2割台半ば



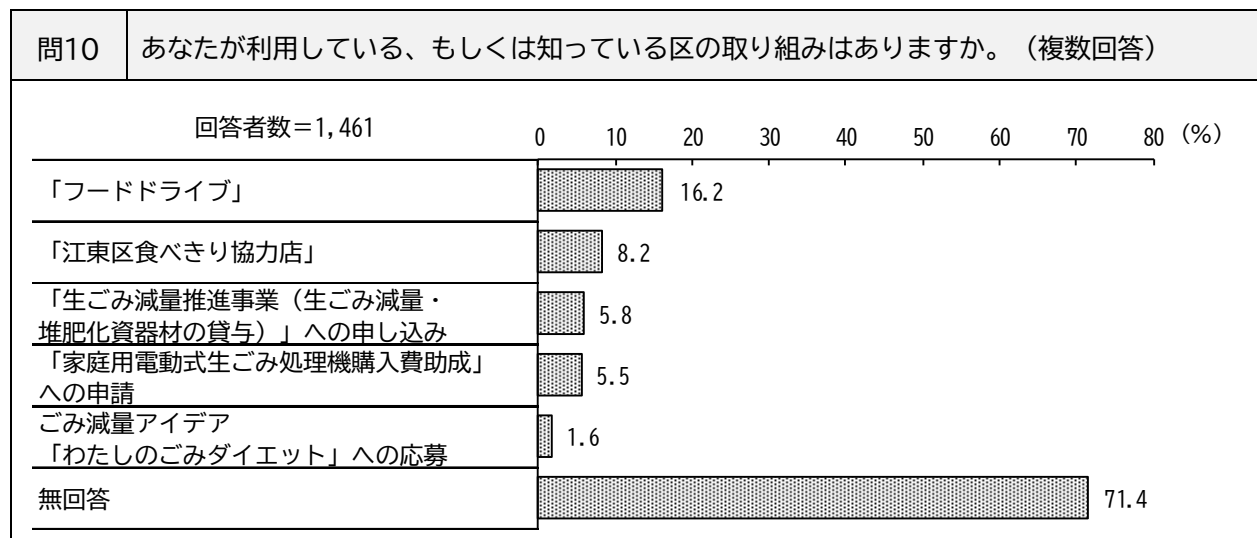
○ごみを減らすために、取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」(81.5%)が8割を超えて最も多く、次いで「ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる」(76.1%)、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(65.4%)と続いている。

一方、取り組みたいことでは、「スーパーなどの店頭回収やバザー・フリーマーケットなどを利用して、地域のリサイクル活動に協力している」(25.0%)が2割台半ばで最も多く、次いで「生ごみは、水切りしたり生ごみ処理機やコンポストを利用して減量している」(23.0%)、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」(17.7%)と続いている。

(2) 利用している、もしくは知っている食品ロスを減らす取り組み

新規

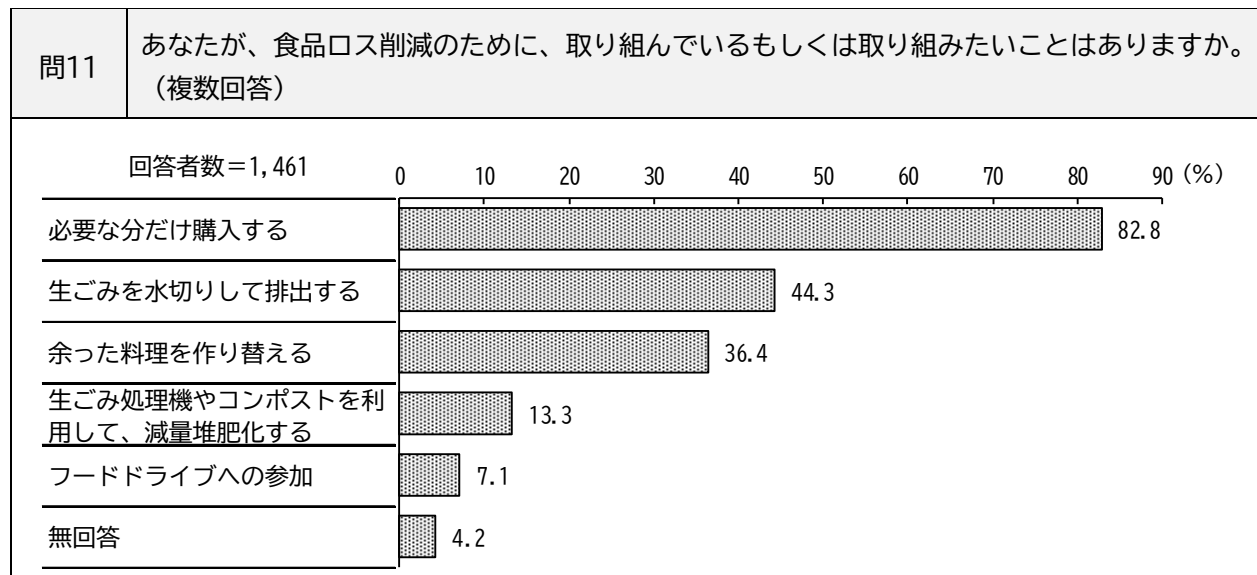
◇「フードドライブ」が1割台半ば



○利用している、もしくは知っている区の食品ロスを減らす取り組みについて聞いたところ、「フードドライブ」（16.2％）が1割台半ばで最も多く、次いで「江東区食べきり協力店」（8.2％）、「生ごみ減量推進事業（生ごみ減量・堆肥化資器材の貸与）」への申し込み（5.8％）と続いている。

(3) 食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいこと

◇「必要な分だけ購入する」が8割を超える

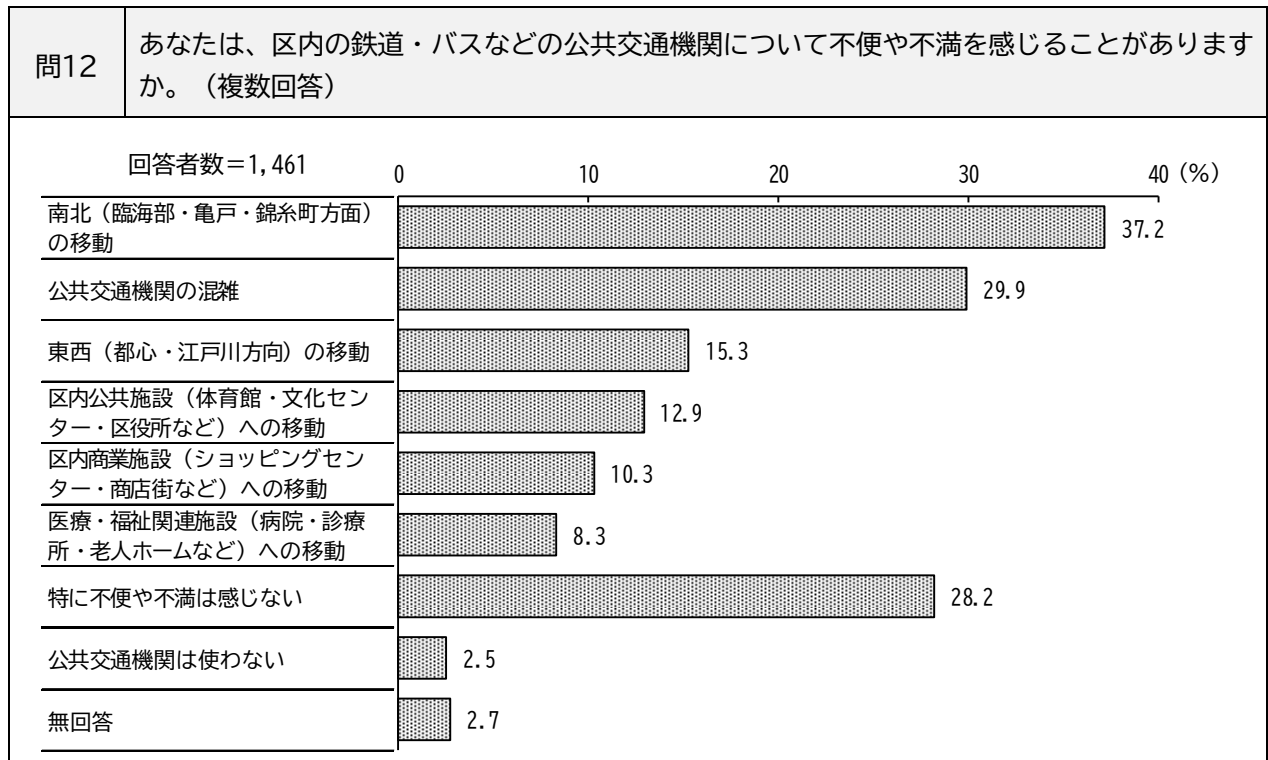


○食品ロス削減のために、取り組んでいるもしくは取り組みたいことについて聞いたところ、「必要な分だけ購入する」（82.8％）が8割を超えて最も多く、次いで「生ごみを水切りして排出する」（44.3％）、「余った料理を作り替える」（36.4％）と続いている。

4 交通・まちづくり

（１）区内の公共交通機関で不便や不満を感じることに

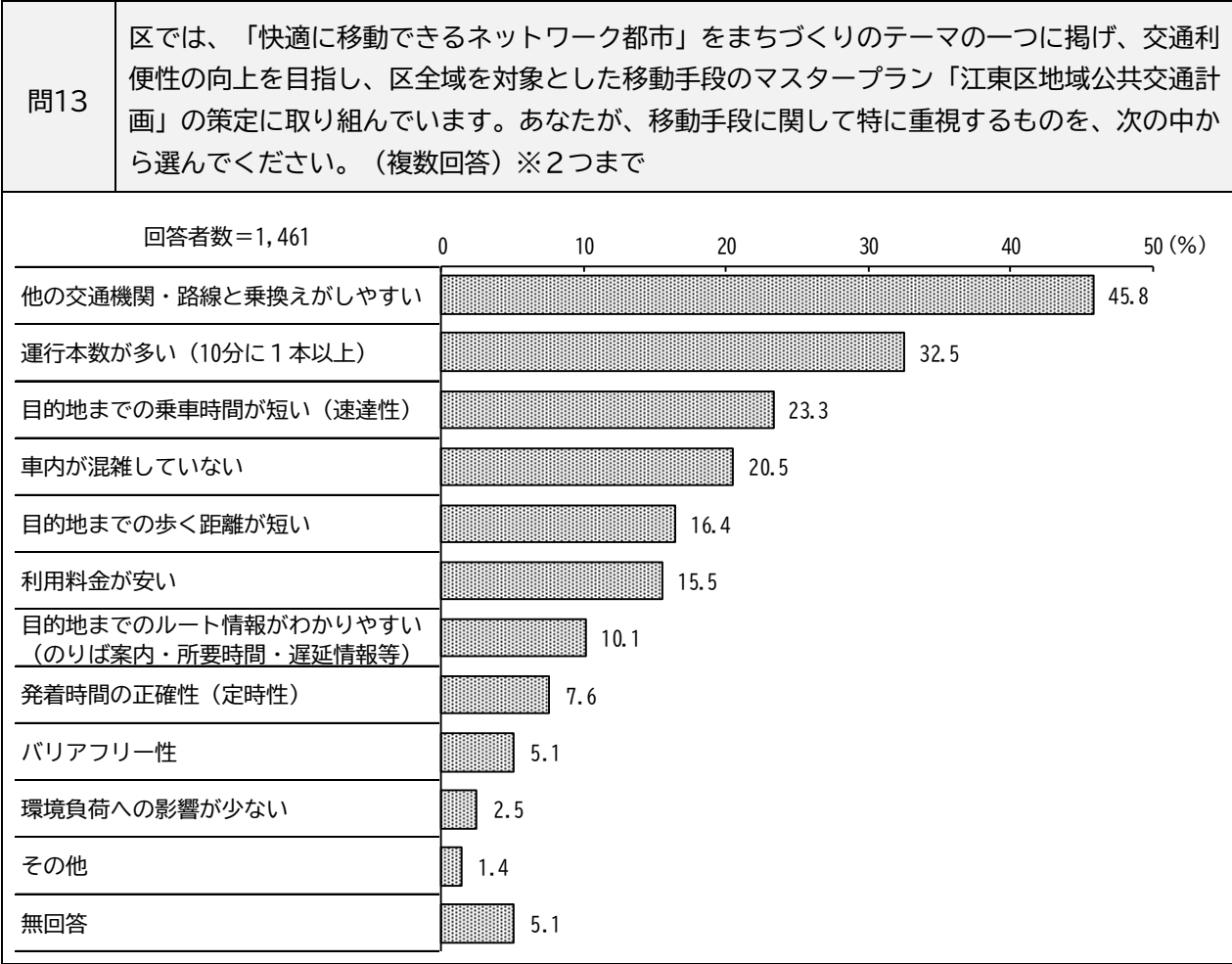
◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が４割近く



○区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（37.2%）が４割近くで最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（29.9%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（15.3%）と続いている。

(2) 移動手段で重視するもの

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が4割台半ば



○移動手段に関して特に重視するものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」（45.8％）が4割台半ばで最も多く、次いで「運行本数が多い（10分に1本以上）」（32.5％）、「目的地までの乗車時間が短い（速達性）」（23.3％）と続いている。

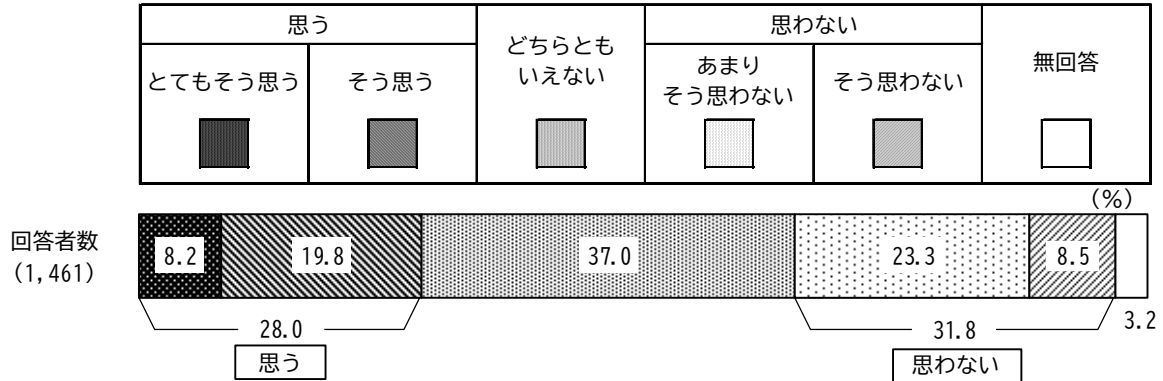
(3) 沿線各駅周辺地区の魅力あるまちづくり

新規

◇「思う」は3割近く

問14

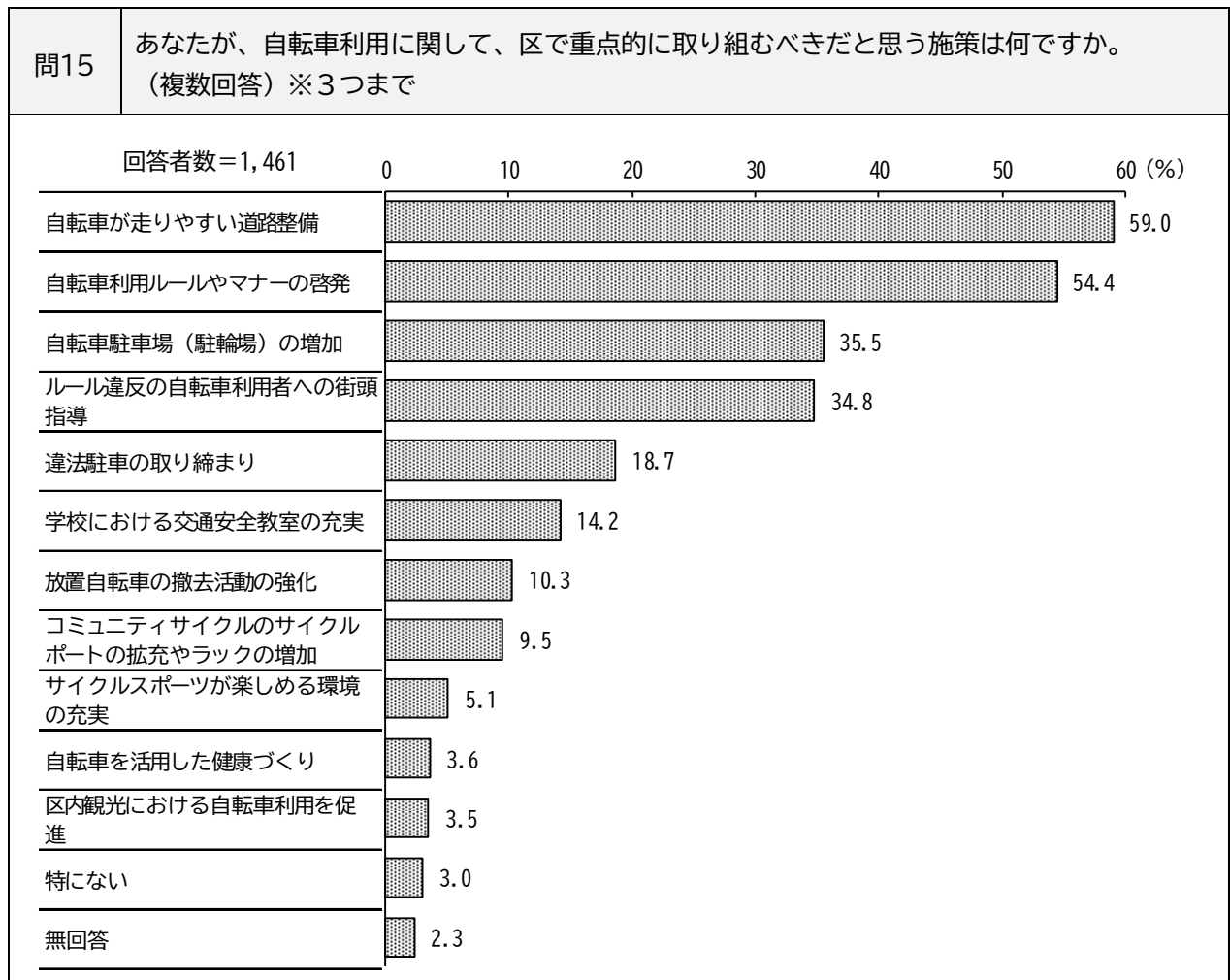
地下鉄8号線（有楽町線）豊洲～住吉間の延伸に伴い、沿線各駅（豊洲駅、（仮称）枝川駅、東陽町駅、（仮称）千石駅、住吉駅）周辺のまちづくりを順次進めています。あなたは沿線各駅周辺地区において魅力あるまちづくりが進んでいると思いますか。



○沿線各駅周辺地区において魅力あるまちづくりが進んでいると思うか聞いたところ、「とても思う」（8.2%）と「そう思う」（19.8%）の2つを合わせた「思う」（28.0%）は3割近くとなっている。

(4) 自転車利用について区が取り組むべき施策

◇「自転車が走りやすい道路整備」がほぼ6割

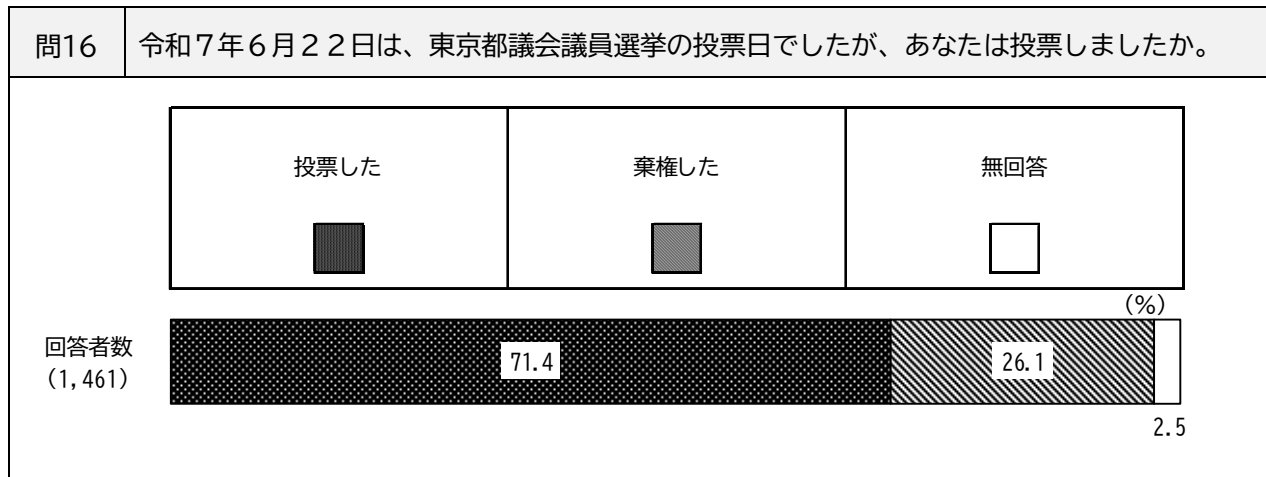


○自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(59.0%)がほぼ6割で最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.4%)、「自転車駐車場(駐輪場)の増加」(35.5%)と続いている。

5 選挙

(1) 東京都議会議員選挙の投票の有無

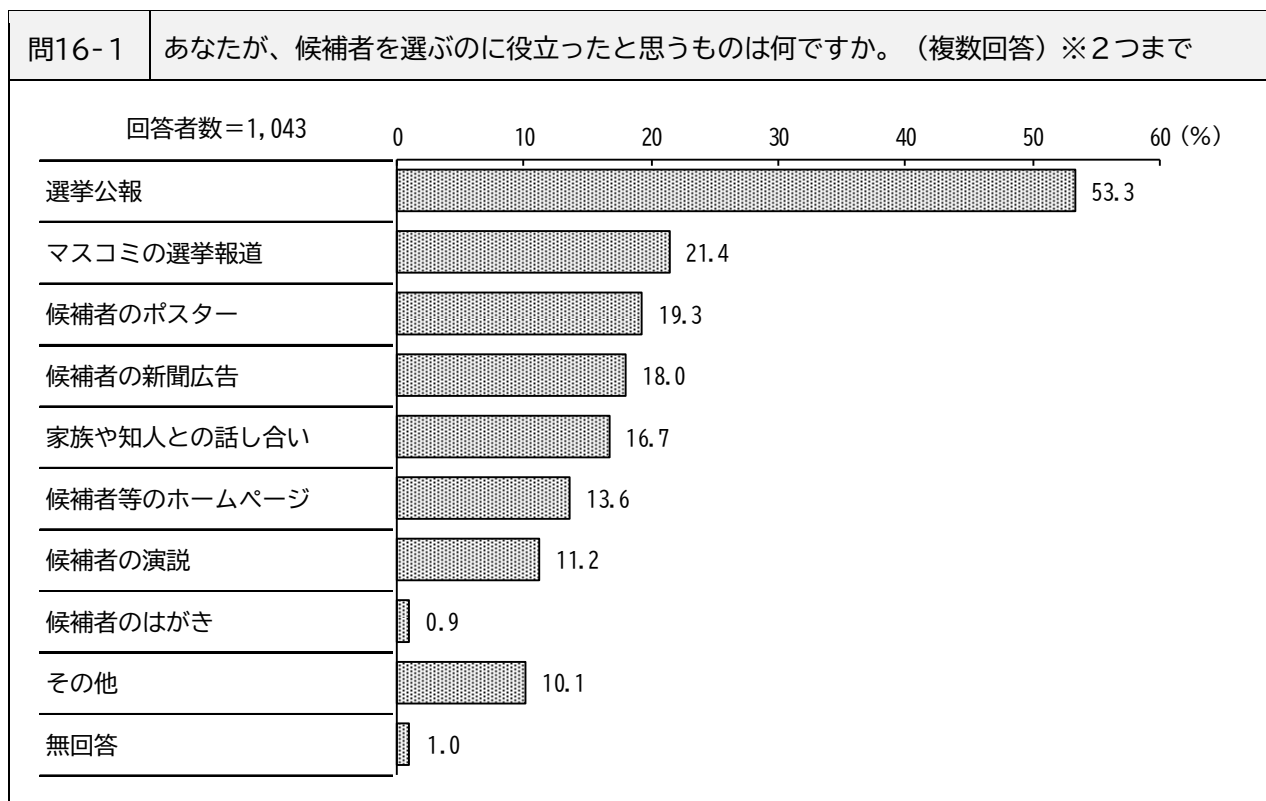
◇「投票した」が7割を超える



○令和7年6月22日の東京都議会議員選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」(71.4%)は7割を超えている。なお、実際の東京都議会議員選挙の投票率は49.13%であった。

(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

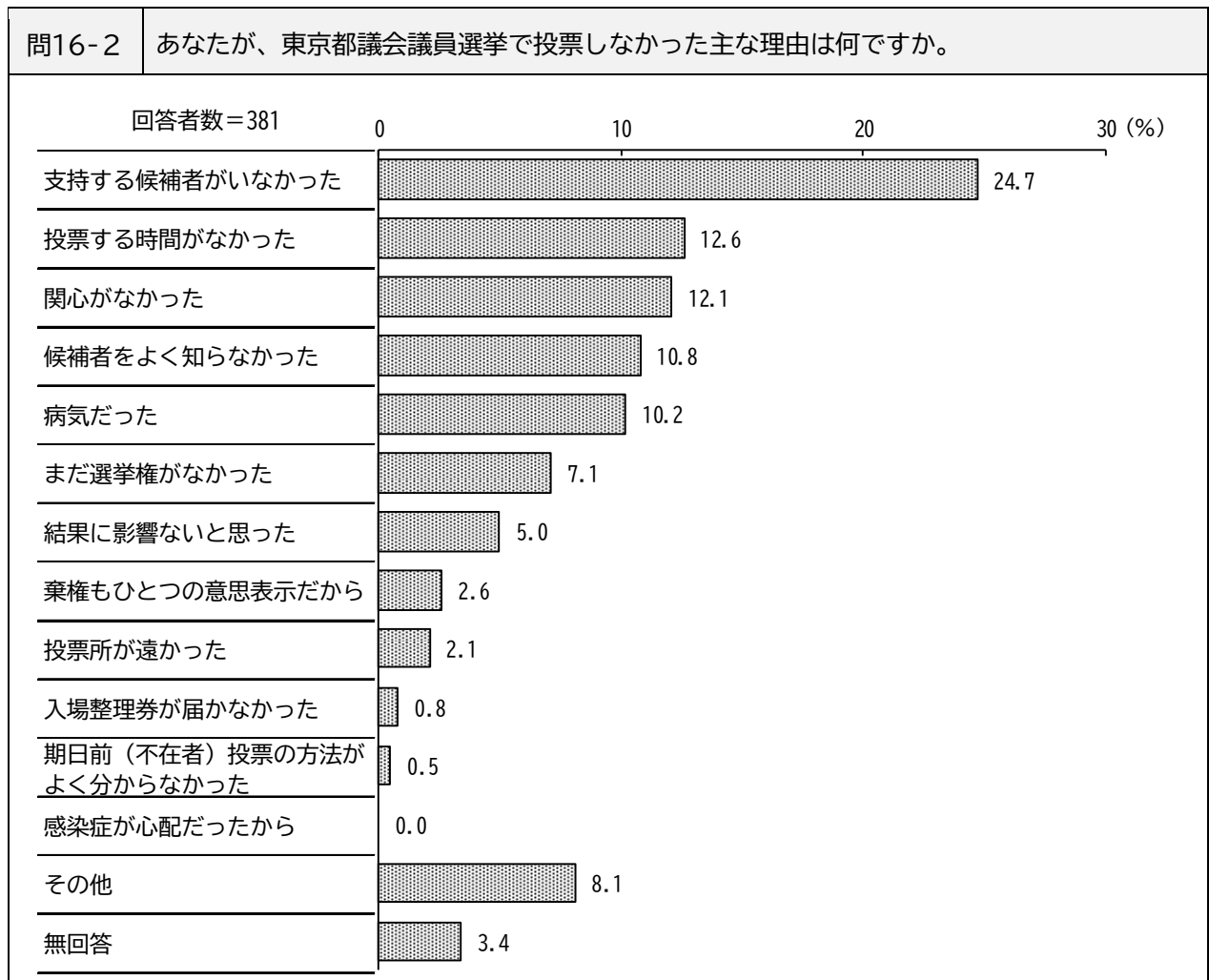
◇「選挙公報」が5割を超える



○令和7年6月の東京都議会議員選挙に「投票した」と答えた方(1,043人)に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」(53.3%)が5割を超えて最も多く、次いで「マスコミの選挙報道」(21.4%)、「候補者のポスター」(19.3%)と続いている。

(3) 投票しなかった理由

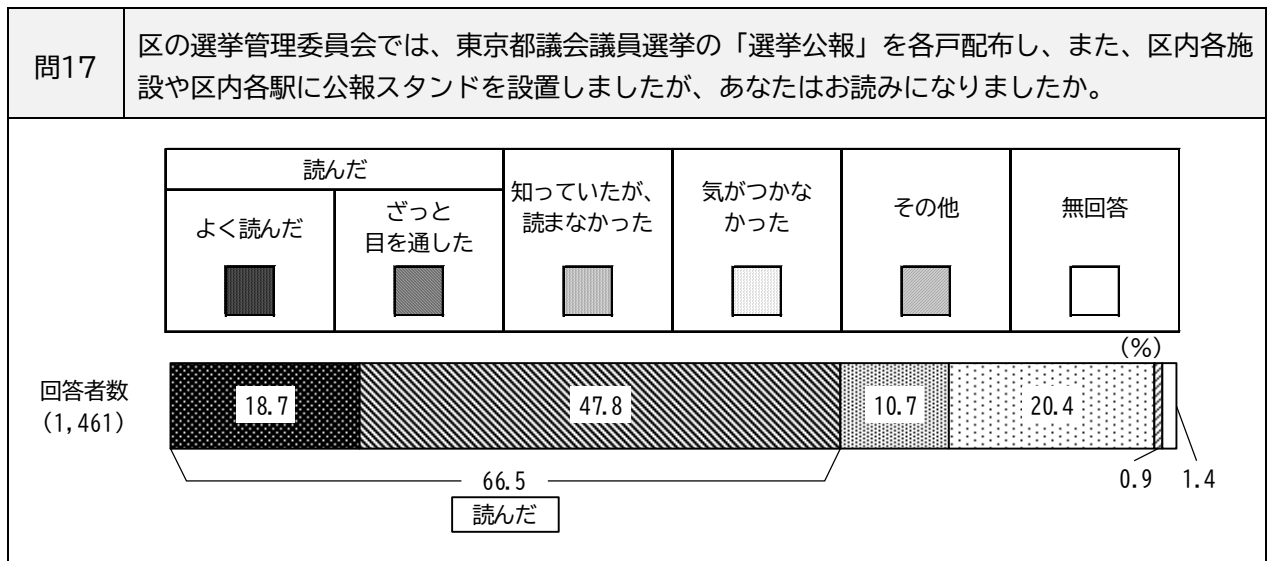
◇「支持する候補者がいなかった」が2割台半ば



○令和7年6月の東京都議会議員選挙に「投票しなかった」と答えた方（381人）に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」（24.7%）が2割台半ばで最も多く、次いで「投票する時間がなかった」（12.6%）、「関心がなかった」（12.1%）と続いている。

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は7割近く

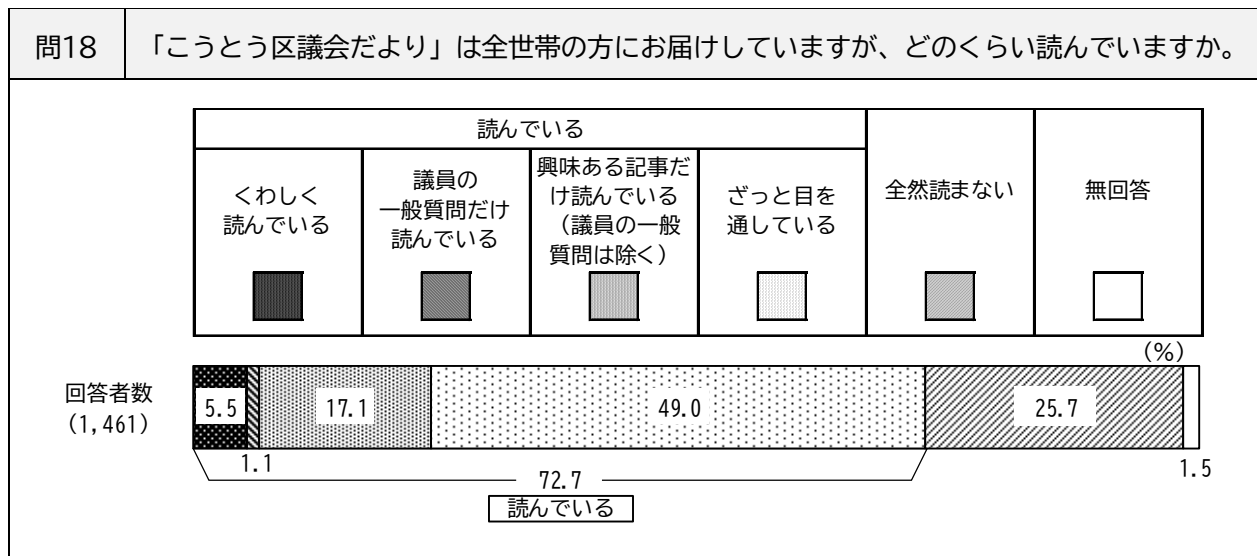


○東京都議会議員選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」（18.7％）と「ざっと目を通した」（47.8％）の2つを合わせた「読んだ」（66.5％）は7割近くとなっている。一方、「知っていたが、読まなかった」（10.7％）はほぼ1割、「気がつかなかった」（20.4％）は2割となっている。

6 区議会

(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況

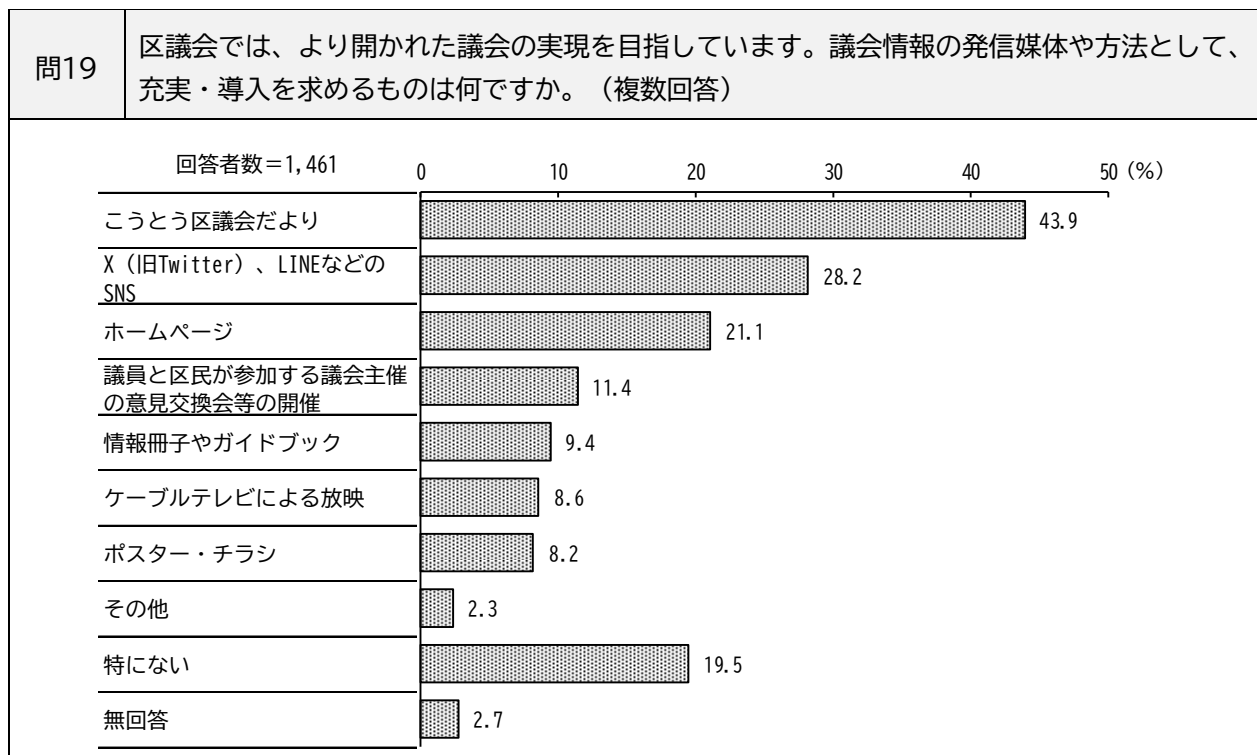
◇「読んでいます」は7割を超える



- 「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」（5.5%）、「議員の一般質問だけ読んでいる」（1.1%）、「興味ある記事だけ読んでいる（議員の一般質問は除く）」（17.1%）、「ざっと目を通している」（49.0%）の4つを合わせた「読んでいます」（72.7%）が7割を超えている。

(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が4割を超える

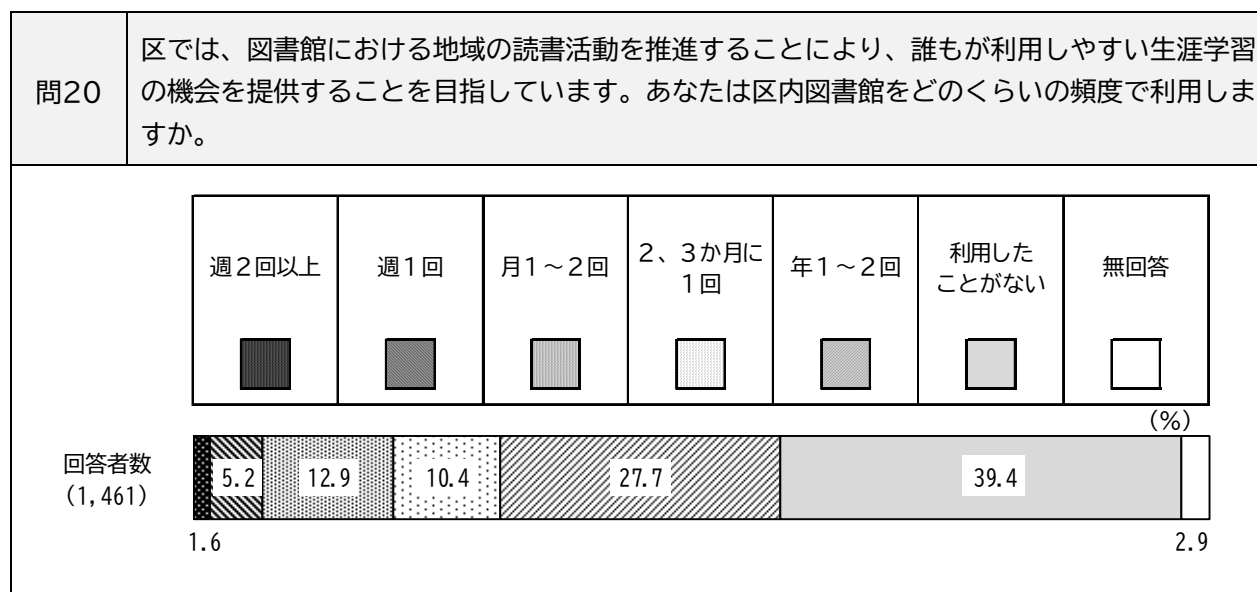


- 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」（43.9%）が4割を超えて最も多く、次いで「X（旧 Twitter）、LINE などの SNS」（28.2%）、「ホームページ」（21.1%）と続いている。

7 図書館

(1) 区内図書館の利用頻度

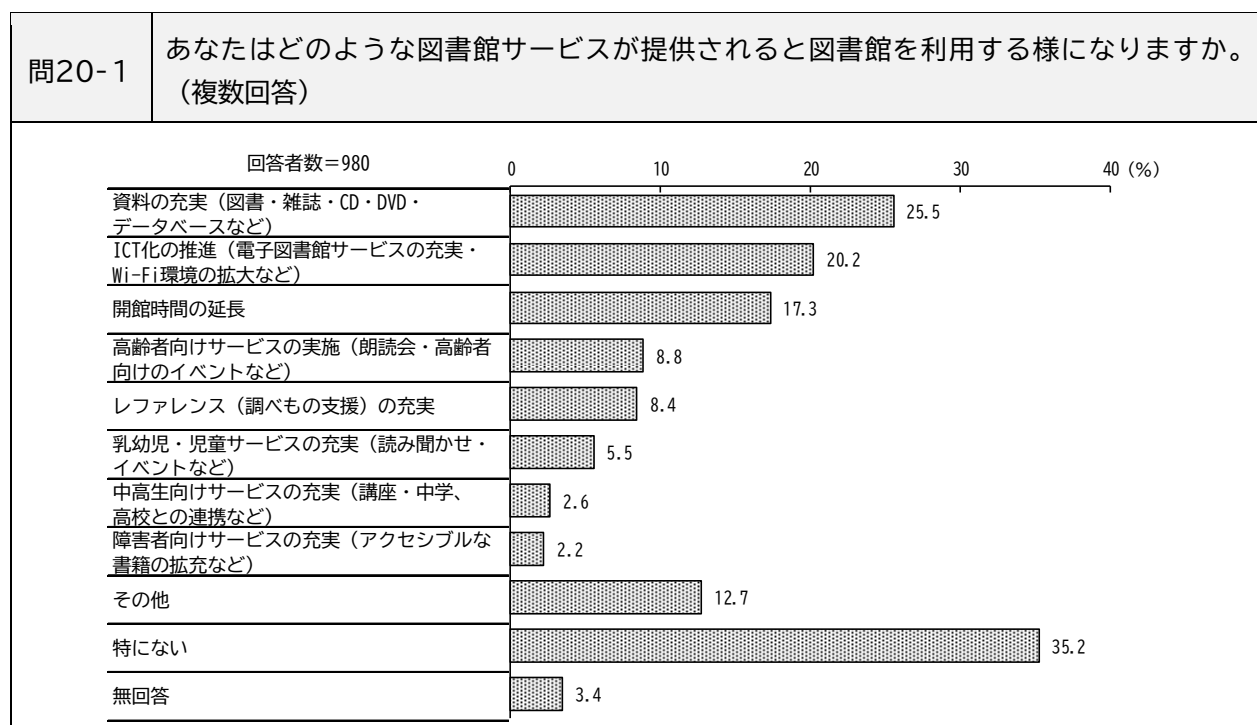
◇「年1～2回」が3割近く



○区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(27.7%)が3割近くとなっている。一方、「利用したことがない」(39.4%)はほぼ4割となっている。

(2) 図書館サービスへの要望

◇「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」が2割台半ば

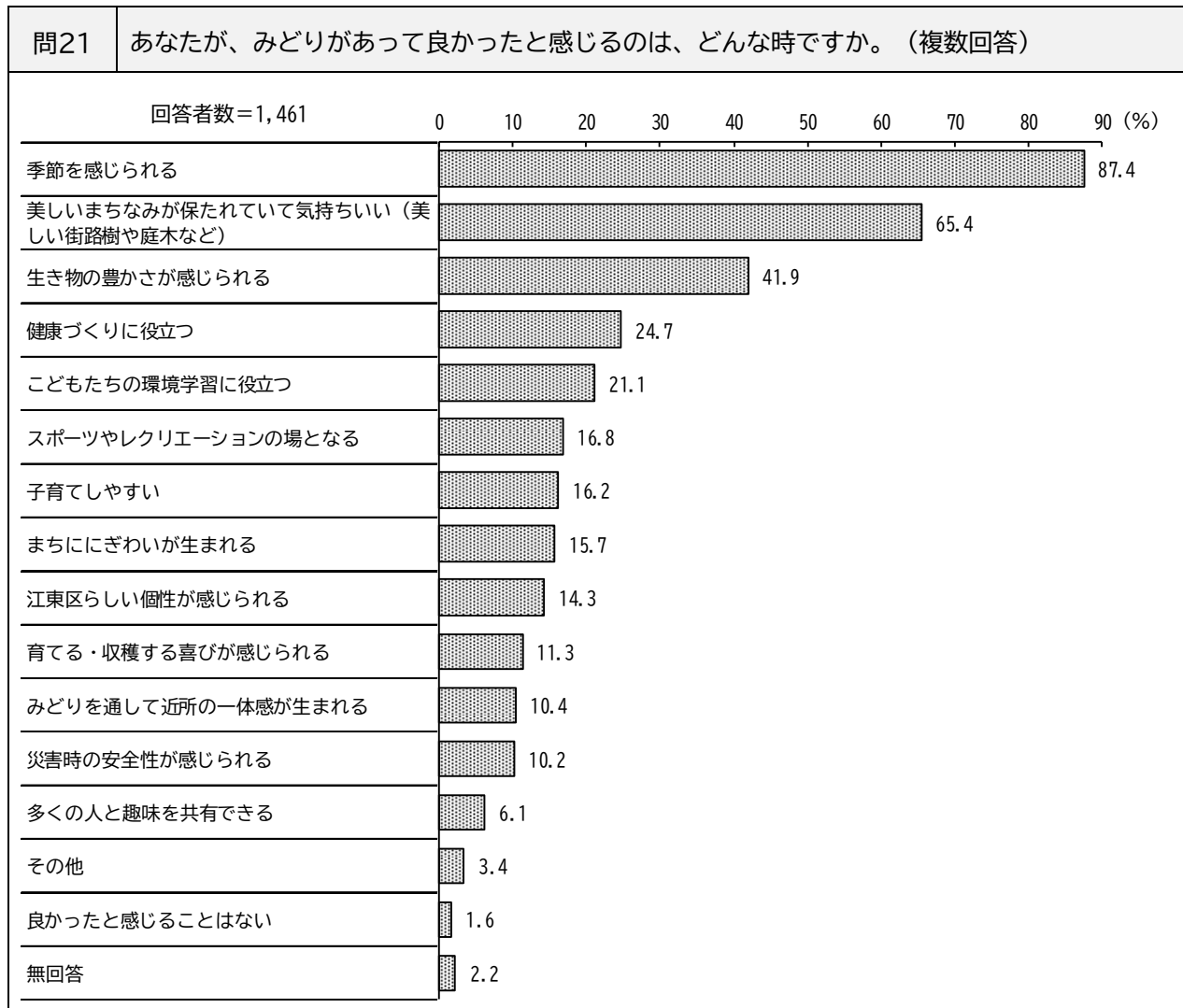


○区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(980人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」(25.5%)が2割台半ばで最も多く、次いで「ICT化の推進(電子図書館サービスの充実・Wi-Fi環境の拡大など)」(20.2%)、「開館時間の延長」(17.3%)と続いている。

8 環境・緑化

(1) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか

◇「季節を感じられる」が9割近く

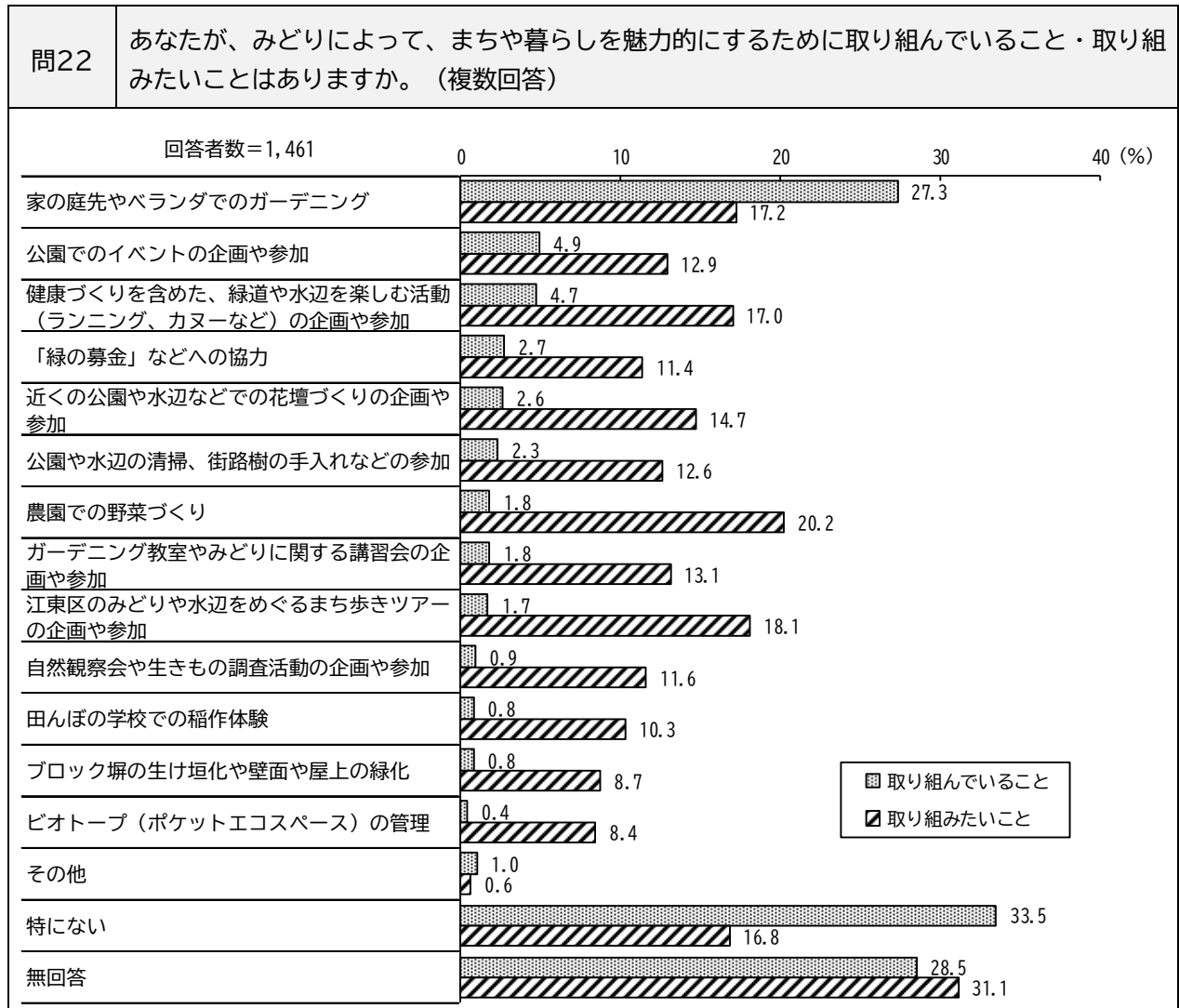


○みどりがあって良かったと感じるのは、どんな時か聞いたところ、「季節を感じられる」（87.4%）が9割近くで最も多く、次いで「美しいまちなみが保たれていて気持ちいい（美しい街路樹や庭木など）」（65.4%）、「生き物の豊かさが感じられる」（41.9%）と続いている。

(2) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業

◇取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」が3割近く

◇取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」が2割

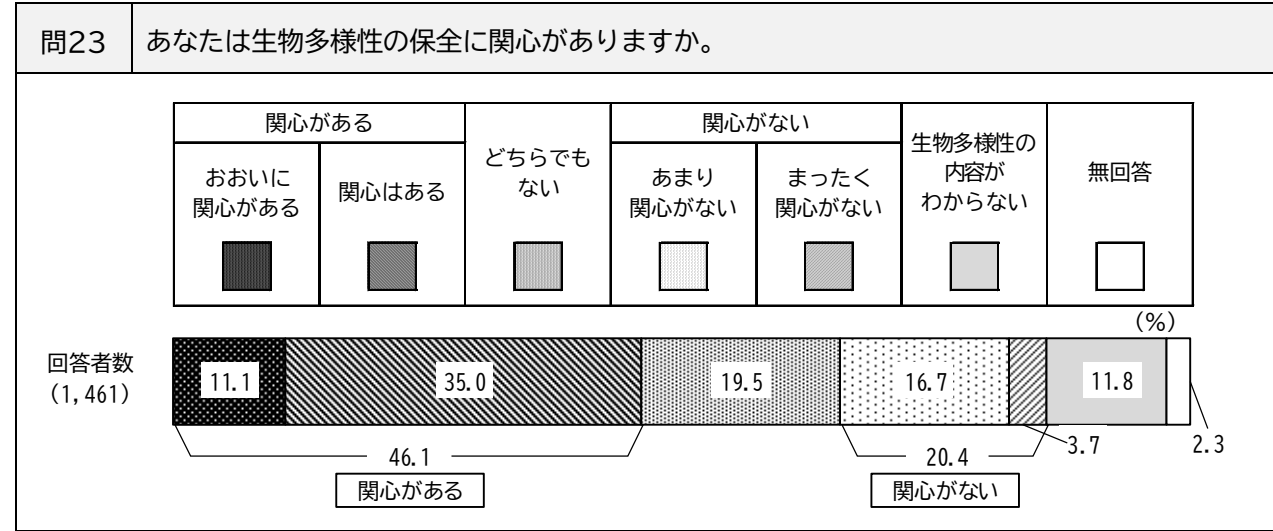


○みどりによって、まちや暮らしを魅力的にするために取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」（27.3%）が3割近くで最も多く、次いで「公園でのイベントの企画や参加」（4.9%）、「健康づくりを含めた、緑道や水辺を楽しむ活動（ランニング、カヌーなど）の企画や参加」（4.7%）と続いている。一方、取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」（20.2%）が2割で最も多く、次いで「江東区のみどりや水辺をめぐるまち歩きツアーの企画や参加」（18.1%）、「家の庭先やベランダでのガーデニング」（17.2%）と続いている。

(3) 生物多様性の保全への関心

新規

◇「関心がある」は4割台半ば

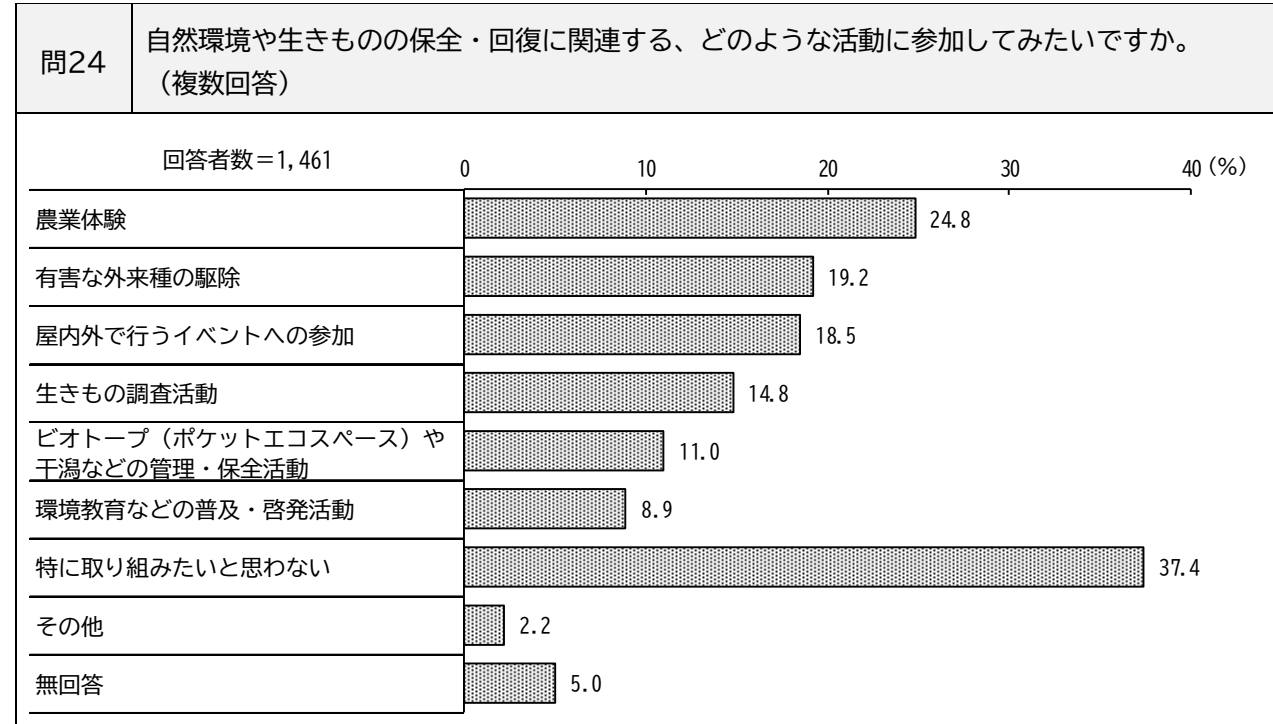


○生物多様性の保全に関心があるか聞いたところ、「おいおいに関心がある」（11.1％）と「関心はある」（35.0％）を合わせた「関心がある」（46.1％）が4割台半ばとなっている。

(4) 参加したい自然環境や生きものの保全・回復に関連する活動

新規

◇「農業体験」が2割台半ば

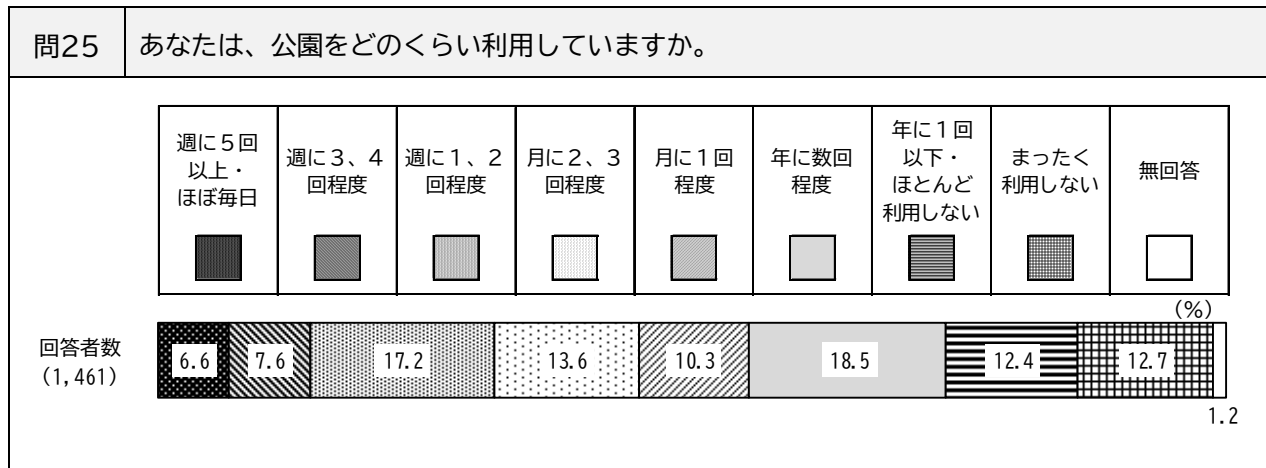


○自然環境や生きものの保全・回復に関連する、どのような活動に参加してみたいか聞いたところ、「農業体験」（24.8％）が2割台半ばで最も多く、次いで「有害な外来種の駆除」（19.2％）、「屋内外で行うイベントへの参加」（18.5％）と続いている。

9 公園

(1) 公園の利用頻度

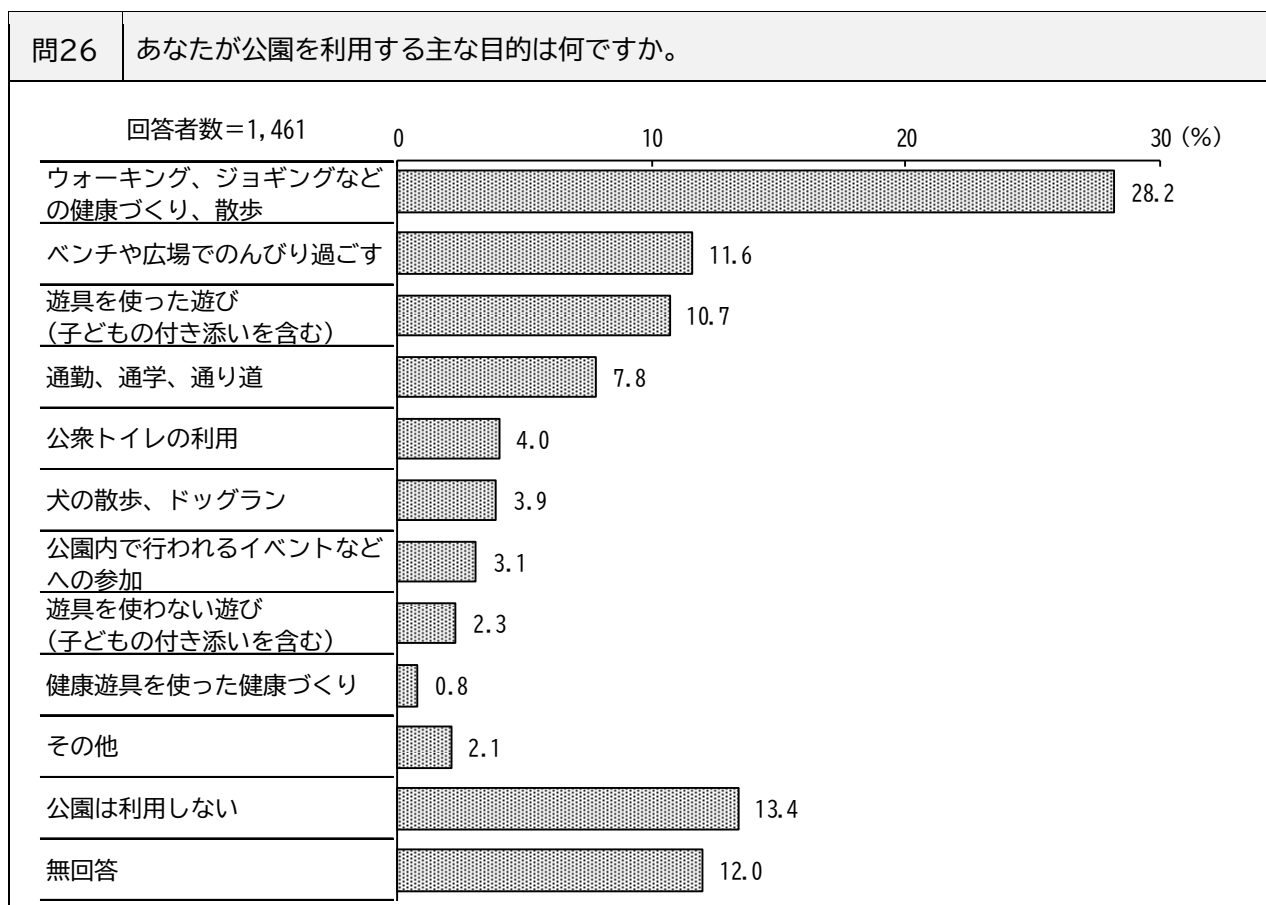
◇「年に数回程度」が2割近く



○公園の利用頻度を聞いたところ、「年に数回程度」（18.5％）が2割近くで最も多くなっている。
「週に5回以上・ほぼ毎日」～「週に1、2回程度」を合わせると3割を超えている。

(2) 公園を利用する主な目的

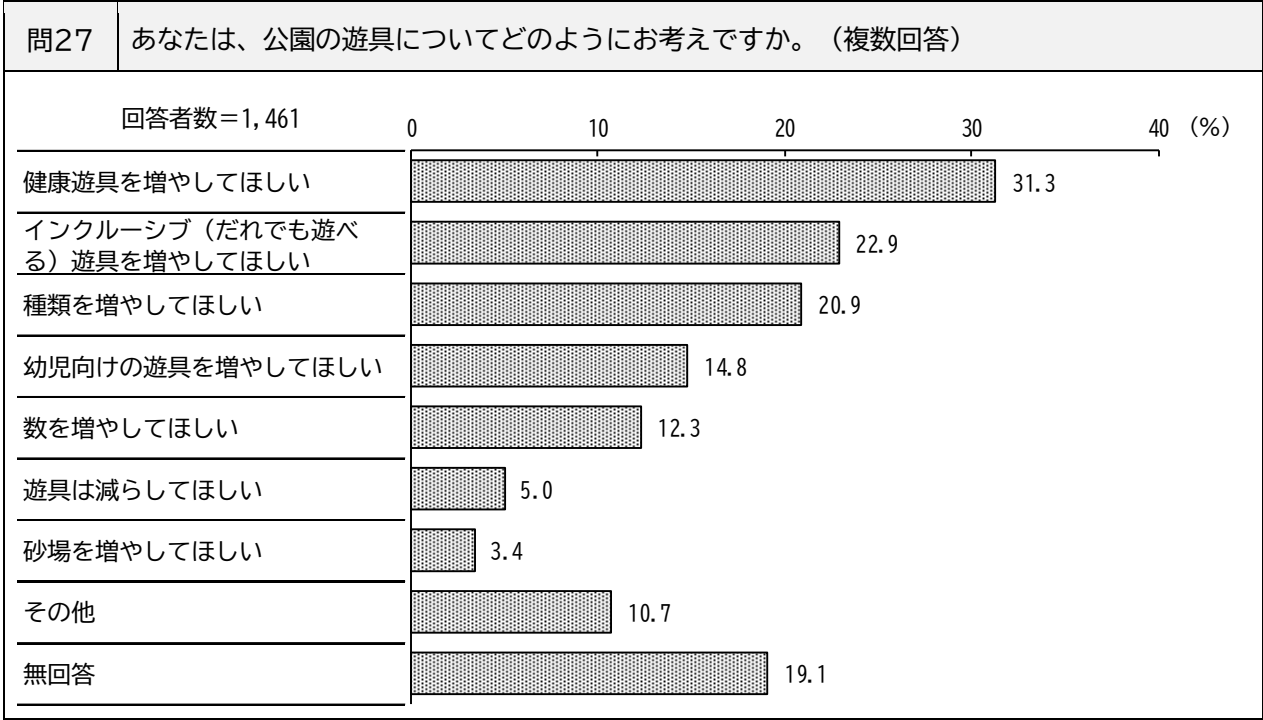
◇「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり、散歩」が3割近く



○公園を利用する主な目的を聞いたところ、「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり、散歩」（28.2％）が3割近くで最も多く、次いで「ベンチや広場でのんびり過ごす」（11.6％）、「遊具を使った遊び(子どもの付き添いを含む）」（10.7％）と続いている。

(3) 公園の遊具についての考え

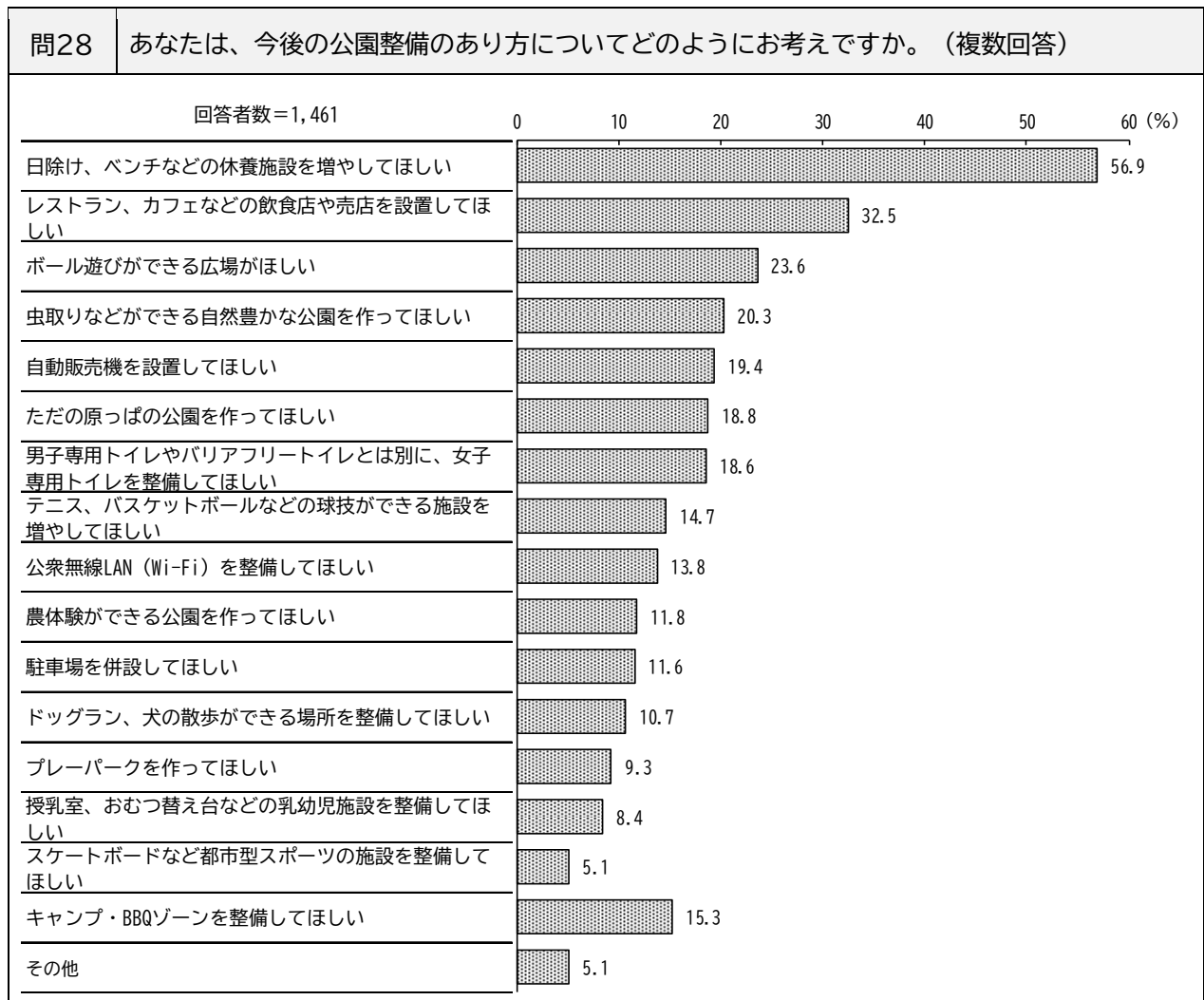
◇「健康遊具を増やしてほしい」が3割を超える



○公園の遊具について聞いたところ、「健康遊具を増やしてほしい」（31.3%）が3割を超えて最も多く、次いで「インクルーシブ（だれでも遊べる）遊具を増やしてほしい」（22.9%）、「種類を増やしてほしい」（20.9%）と続いている。

(4) 公園整備のあり方についての考え

◇「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」が6割近く



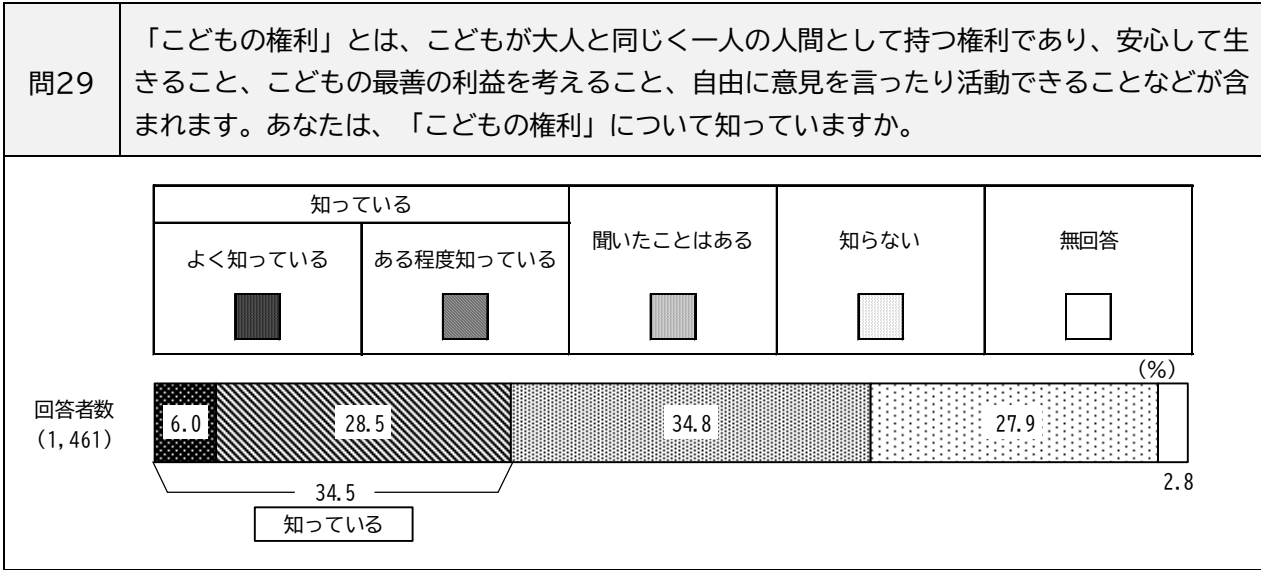
○今後の公園整備のあり方について聞いたところ、「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」（56.9%）が6割近くで最も多く、次いで「レストラン、カフェなどの飲食店や売店を設置してほしい」（32.5%）、「ボール遊びができる広場がほしい」（23.6%）、「虫取りなどができる自然豊かな公園を作してほしい」（20.3%）と続いている。

10 こども

(1) 「こどもの権利」の認知度

新規

◇「知っている」は3割台半ば



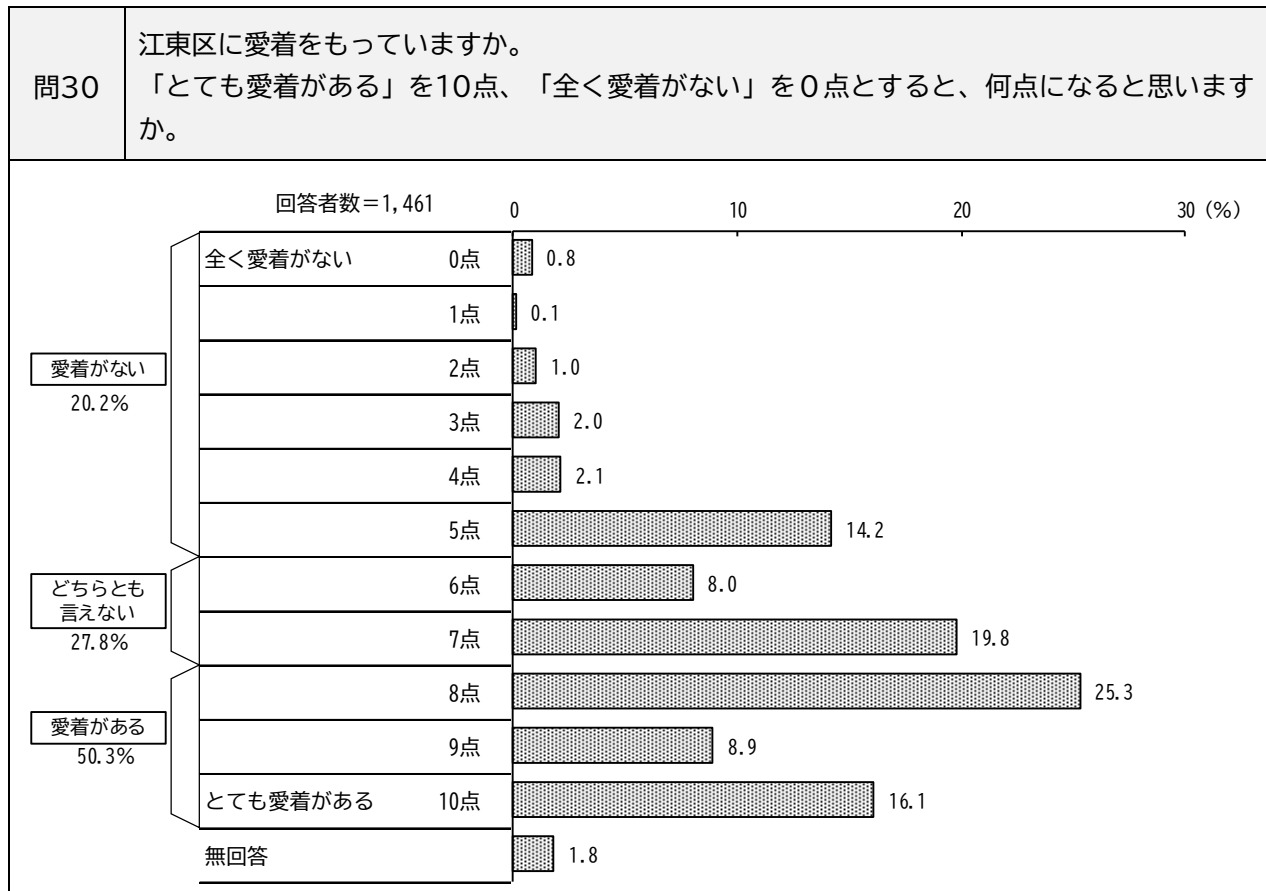
○「こどもの権利」について知っているか聞いたところ、「よく知っている」（6.0％）と「ある程度知っている」（28.5％）の2つを合わせた「知っている」（34.5％）が3割台半ばとなっている。

11 シティプロモーション

(1) 江東区への愛着度

新規

◇「愛着がある」は5割

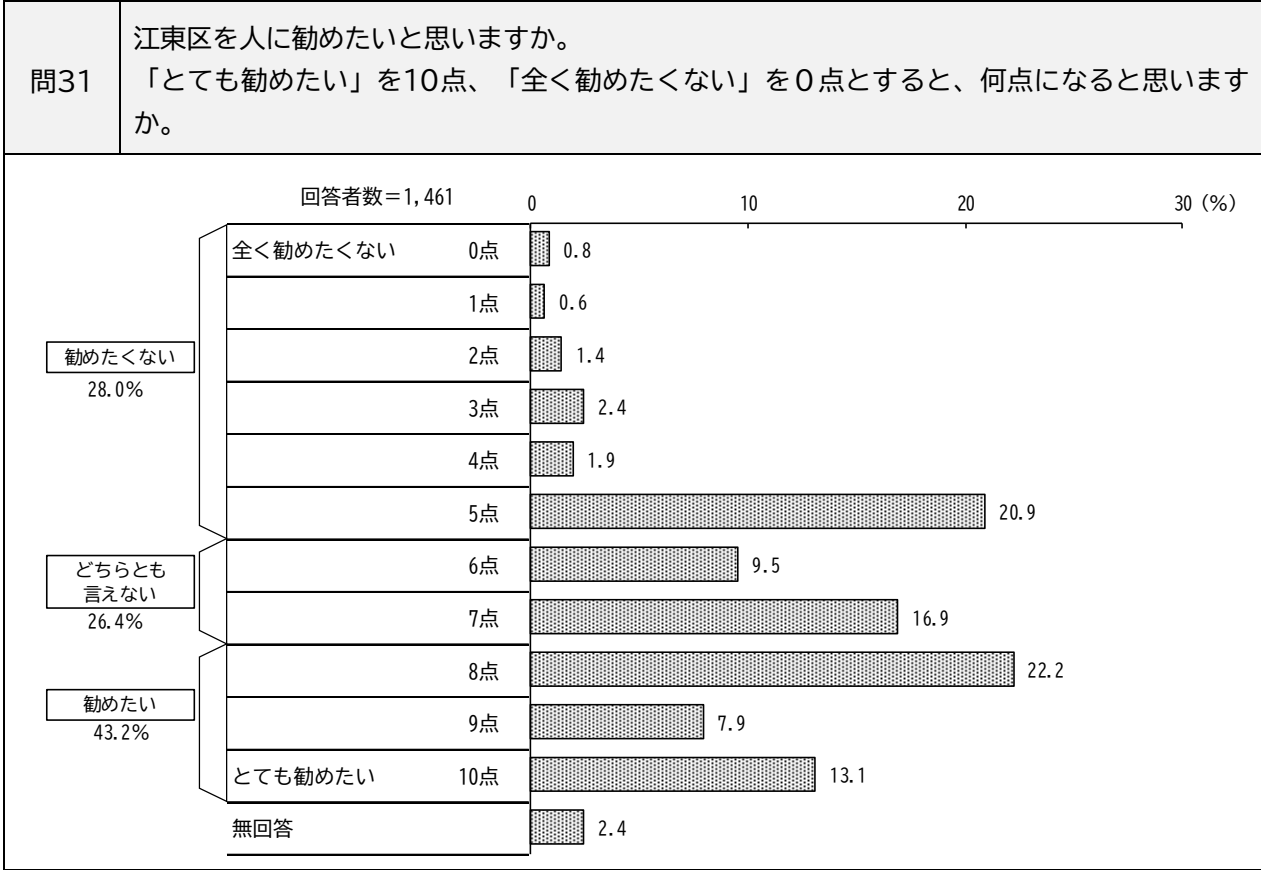


○江東区に愛着をもっているか聞いたところ、「8点」～「10点」の「愛着がある」(50.3%)が5割となっている。

(2) 江東区を人に勧めたいか

新規

◇「勧めたい」は4割を超える

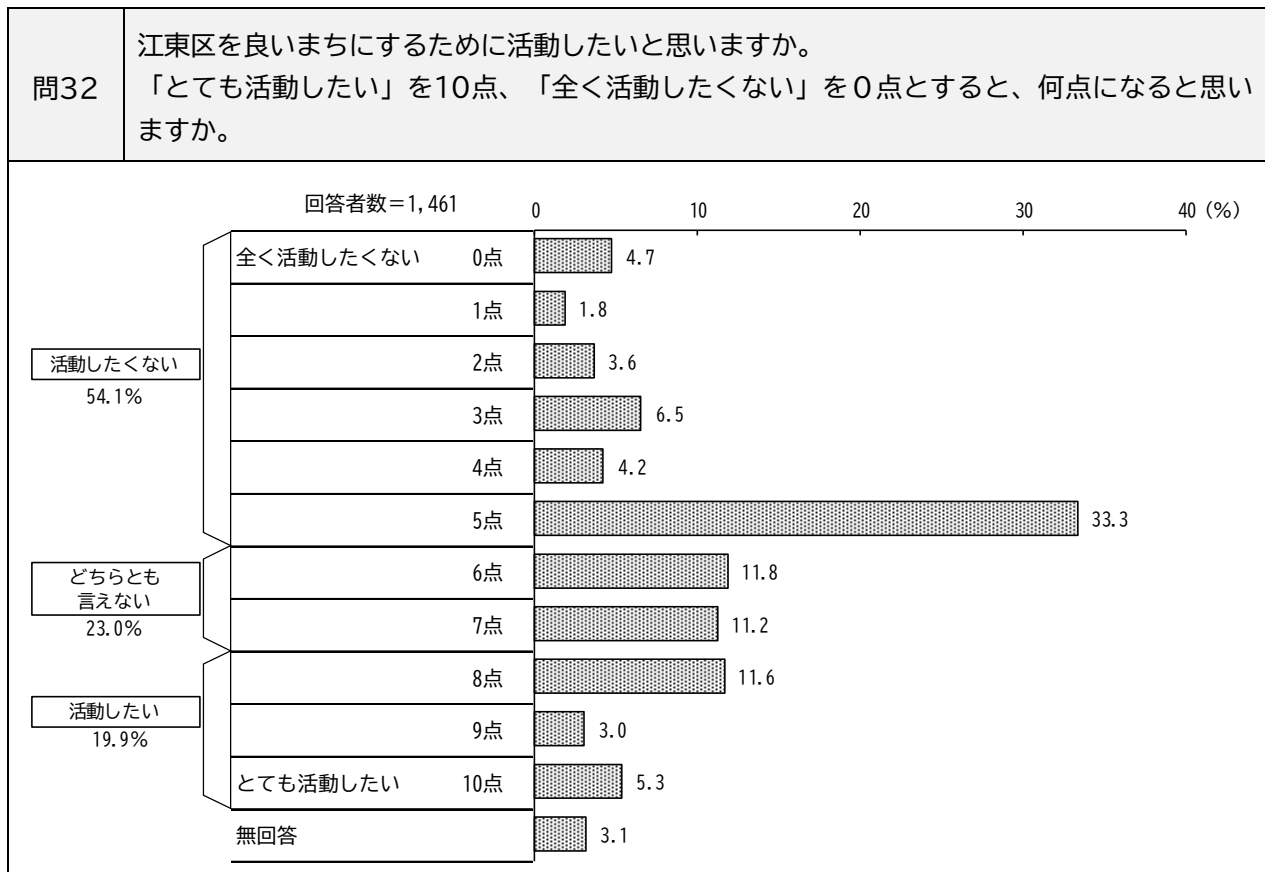


○江東区を人に勧めたいと思うか聞いたところ、「8点」～「10点」の「勧めたい」（43.2%）が4割を超えている。

(3) 江東区を良いまちにするために活動したいと思うか

新規

◇「活動したい」は2割

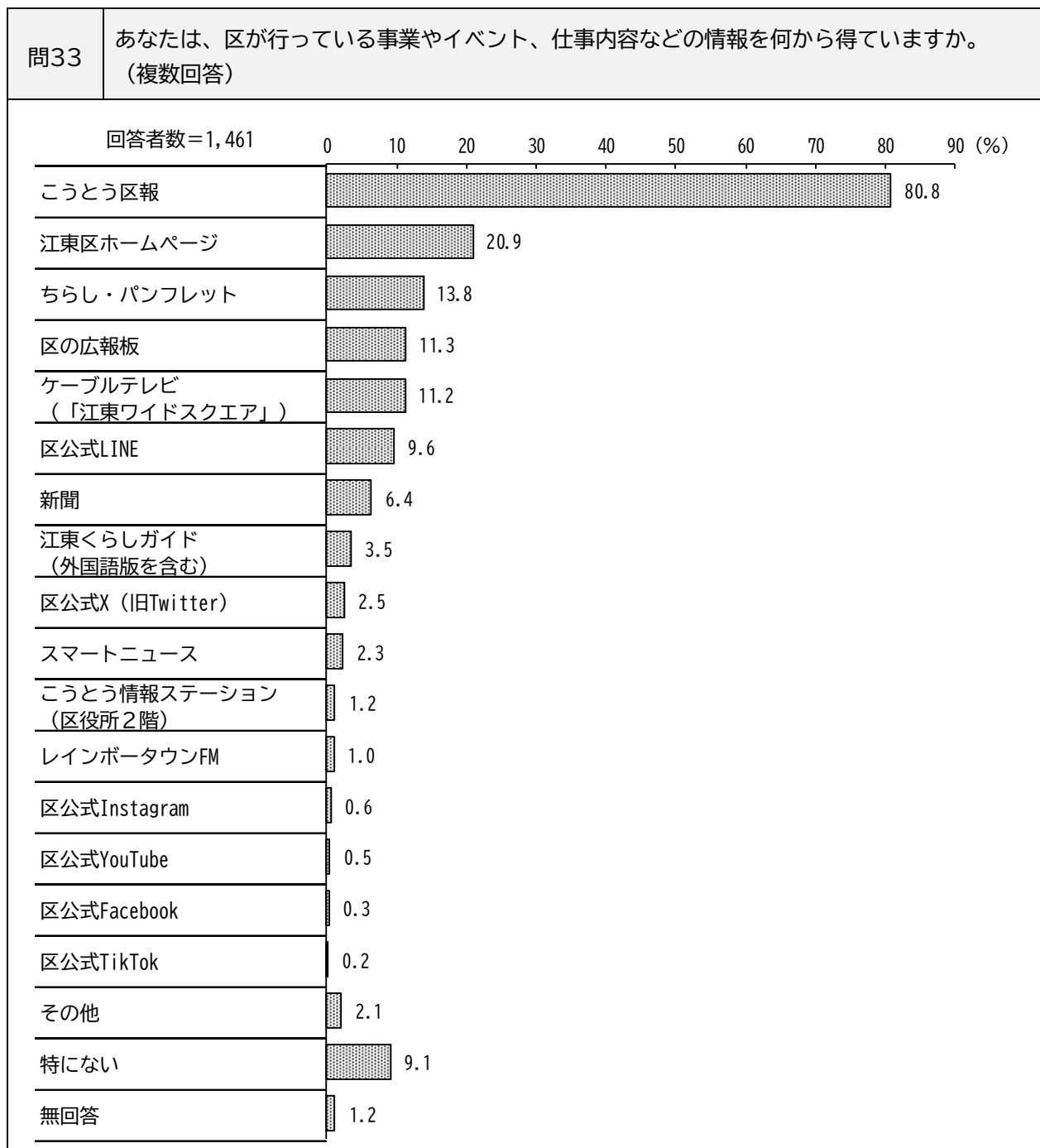


○江東区を良いまちにするために活動したいか聞いたところ、「8点」～「10点」の「活動したい」(19.9%)が2割となっている。

12 広報

(1) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体

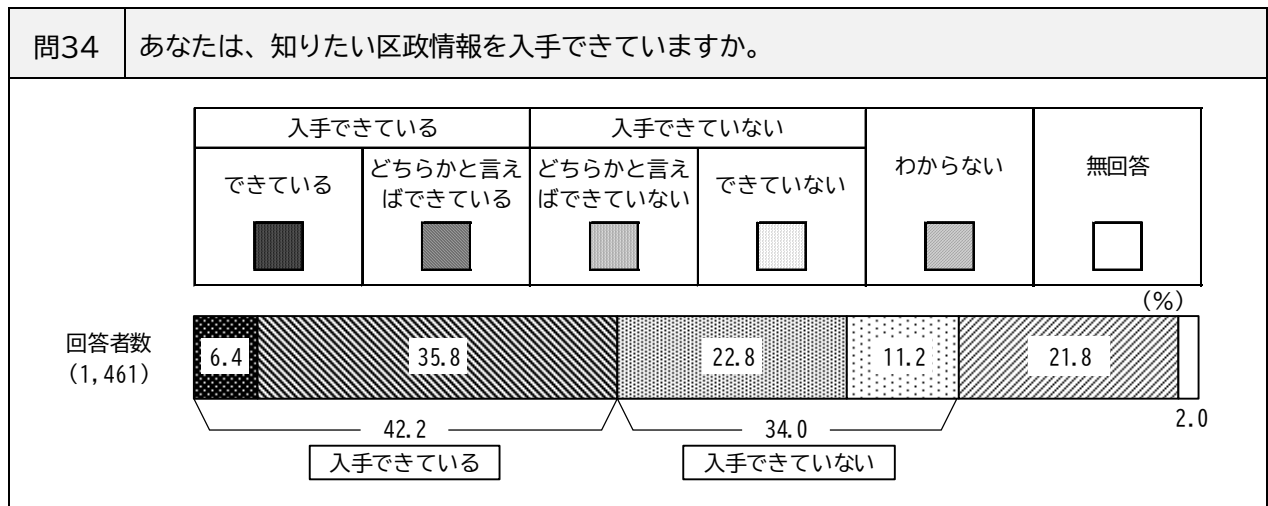
◇「こうとう区報」がほぼ8割



○区が行っている事業やイベント、仕事内容などの情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(80.8%)がほぼ8割で最も多く、次いで「江東区ホームページ」(20.9%)、「ちらし・パンフレット」(13.8%)と続いている。

(2) 区政情報の入手状況

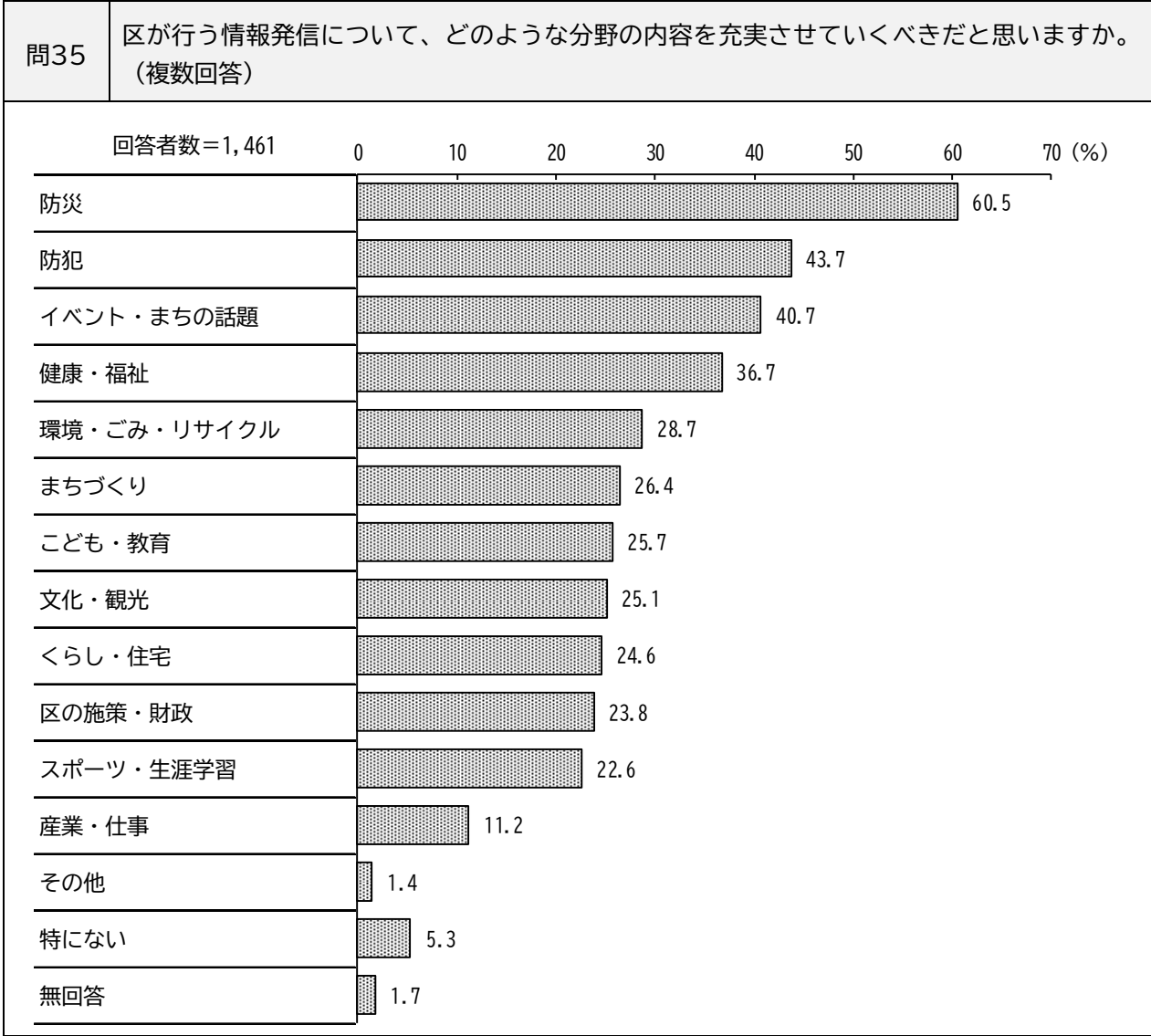
◇「入手できている」は4割を超える



○知りたい区政情報を入手できているか聞いたところ、「できている」(6.4%)と「どちらかと言え ばできている」(35.8%)の2つを合わせた「入手できている」(42.2%)は4割を超えている。一方、「どちらかと言え ばできていない」(22.8%)、「できていない」(11.2%)を合わせた「入手できていない」(34.0%)は3割台半ばとなっている。

(3) 充実させるべき区の情報発信の分野

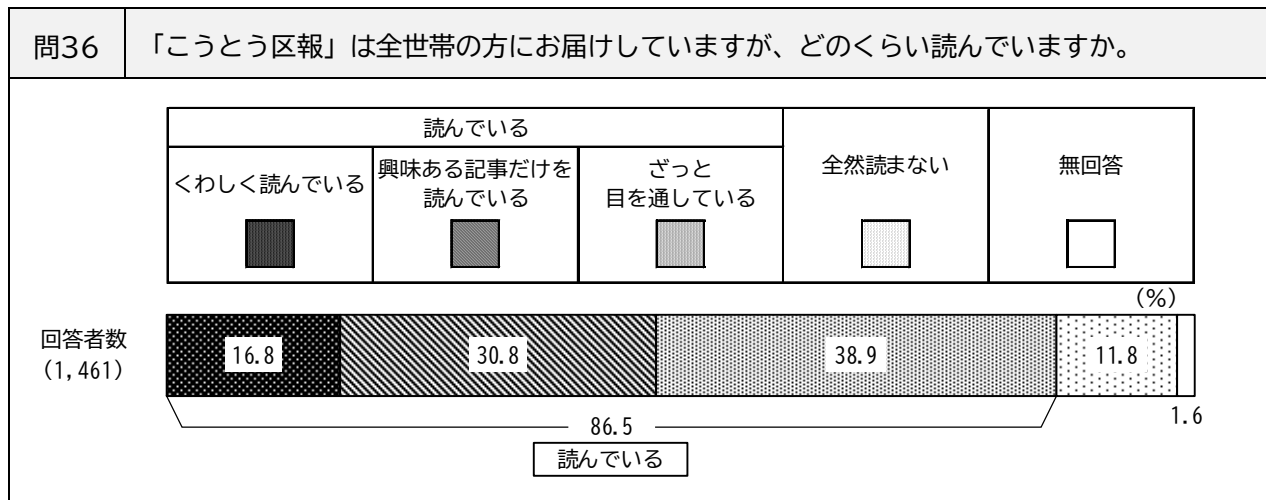
◇「防災」がほぼ6割



○区が行う情報発信について内容を充実させていくべき分野を聞いたところ、「防災」（60.5％）がほぼ6割で最も多く、次いで「防犯」（43.7％）、「イベント・まちの話題」（40.7％）と続いている。

(4) 「こうとう区報」の閲読状況

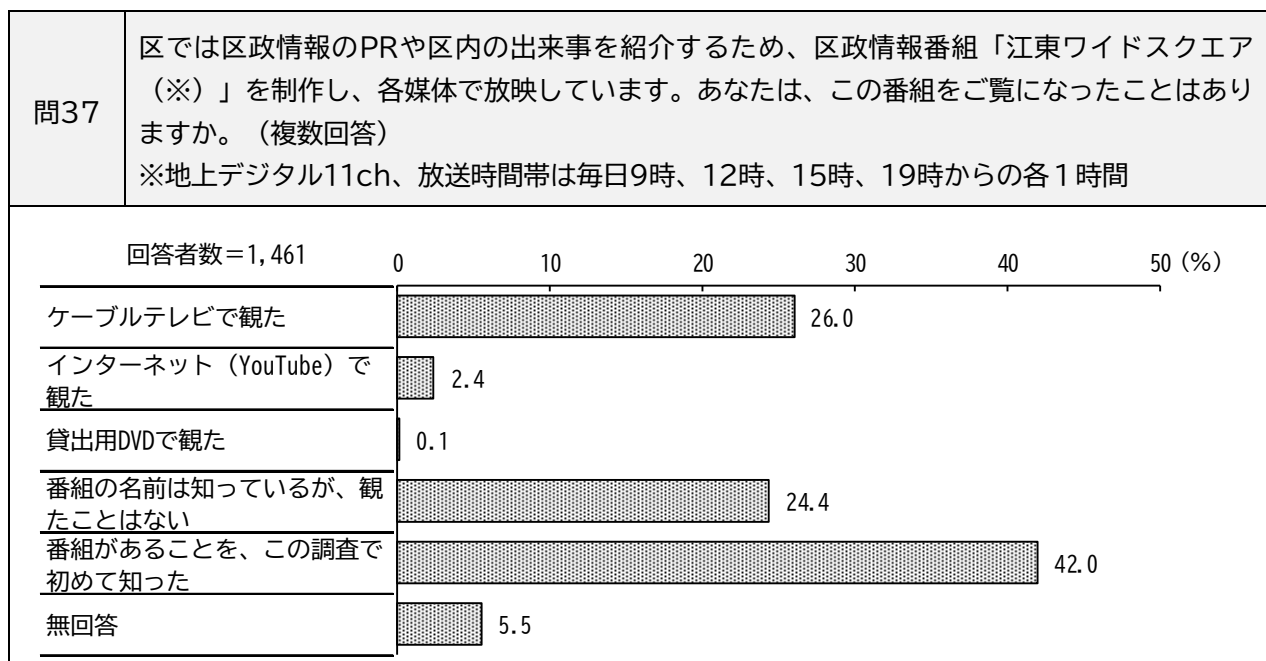
◇「読んでいます」は9割近く



- 「こうとう区報」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいます」（16.8%）、「興味ある記事だけを読んでいます」（30.8%）、「ざっと目を通しています」（38.9%）の3つを合わせた「読んでいます」（86.5%）が9割近くとなっている。

(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況

◇「ケーブルテレビで観た」が2割台半ば

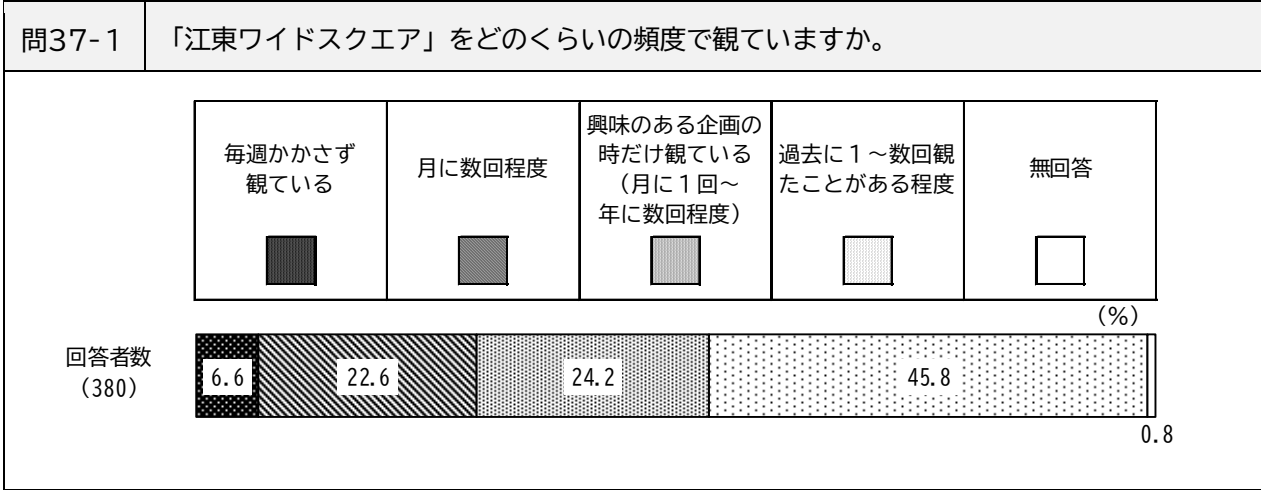


- 「江東ワイドスクエア」を観たことがあるか聞いたところ、観た中では、「ケーブルテレビで観た」（26.0%）が2割台半ばで最も多い。一方、「番組の名前は知っているが、観たことはない」（24.4%）も2割台半ば、「番組があることを、この調査で初めて知った」（42.0%）が4割を超えている。

(6) 「江東ワイドスクエア」の視聴頻度

新規

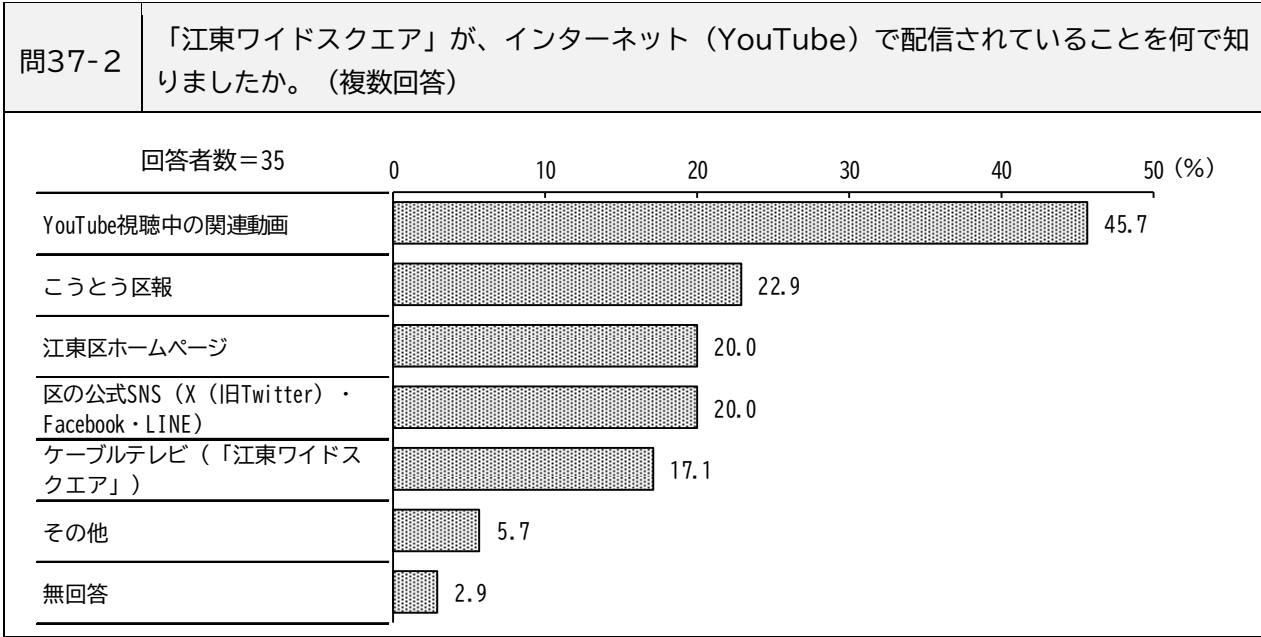
◇「過去に1～数回観たことがある程度」が4割台半ば



○「江東ワイドスクエア」をケーブルテレビで観たことがあると答えた方（380 人）に、どのくらいの頻度で観ているか聞いたところ、「過去に1～数回観たことがある程度」（45.8%）が4割台半ばで最も多く、次いで「興味のある企画の時だけ観ている（月に1回～年に数回程度）」（24.2%）、「月に数回程度」（22.6%）と続いている。

(7) 「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体

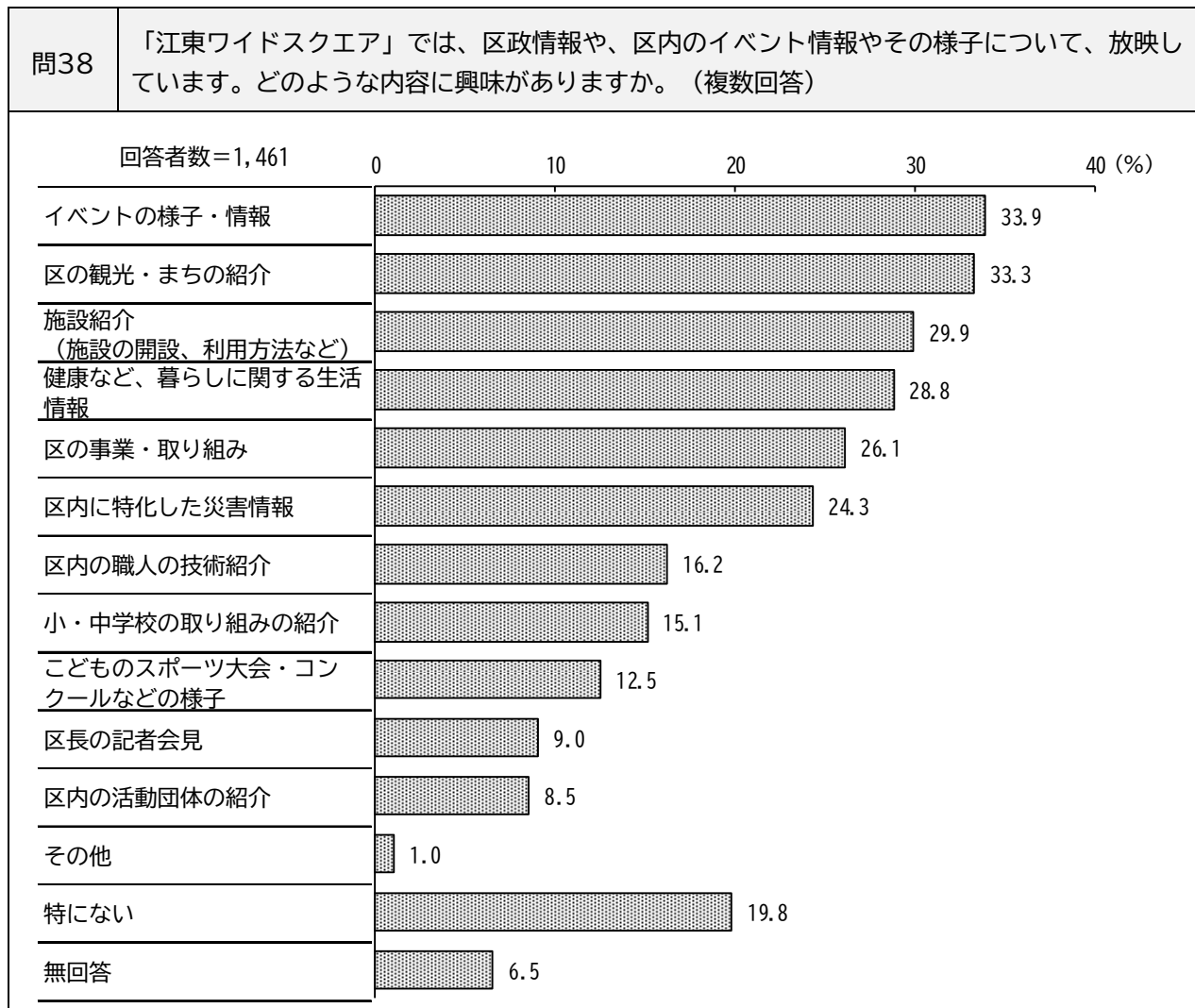
◇「YouTube 視聴中の関連動画」が4割台半ば



○「江東ワイドスクエア」をインターネットで観たことがあると答えた方（35 人）に、インターネットで配信されていることを何で知ったかを聞いたところ、「YouTube 視聴中の関連動画」（45.7%）が4割台半ばで最も多く、次いで「こうとう区報」（22.9%）、「江東区ホームページ」、「区の公式 SNS（X（旧 Twitter）・Facebook・LINE）」（20.0%）と続いている。

(8) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「イベントの様子・情報」が3割を超える

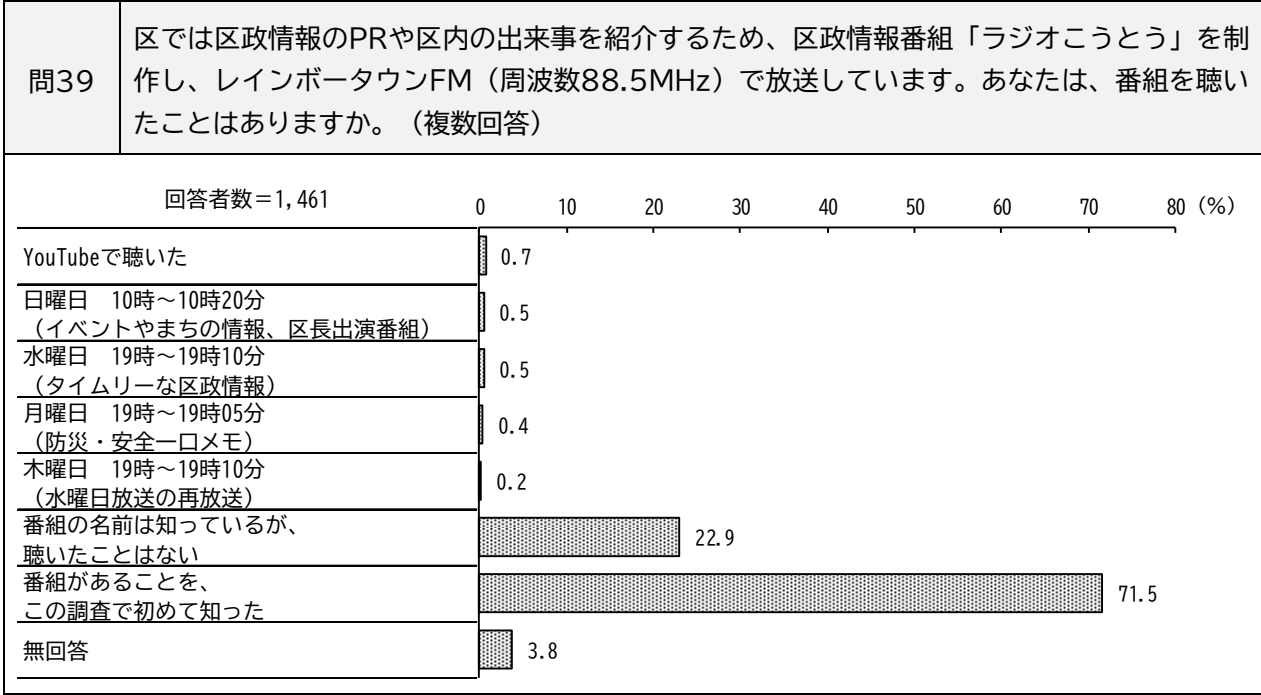


○「江東ワイドスクエア」で、どのような内容に興味があるかを聞いたところ、「イベントの様子・情報」（33.9％）が3割を超えて最も多く、次いで「区の観光・まちの紹介」（33.3％）、「施設紹介（施設の開設、利用方法など）」（29.9％）と続いている。

(9) 区政情報番組「ラジオこうとう」の聴取歴

新規

◇「番組の名前は知っているが、聴いたことはない」が2割を超える

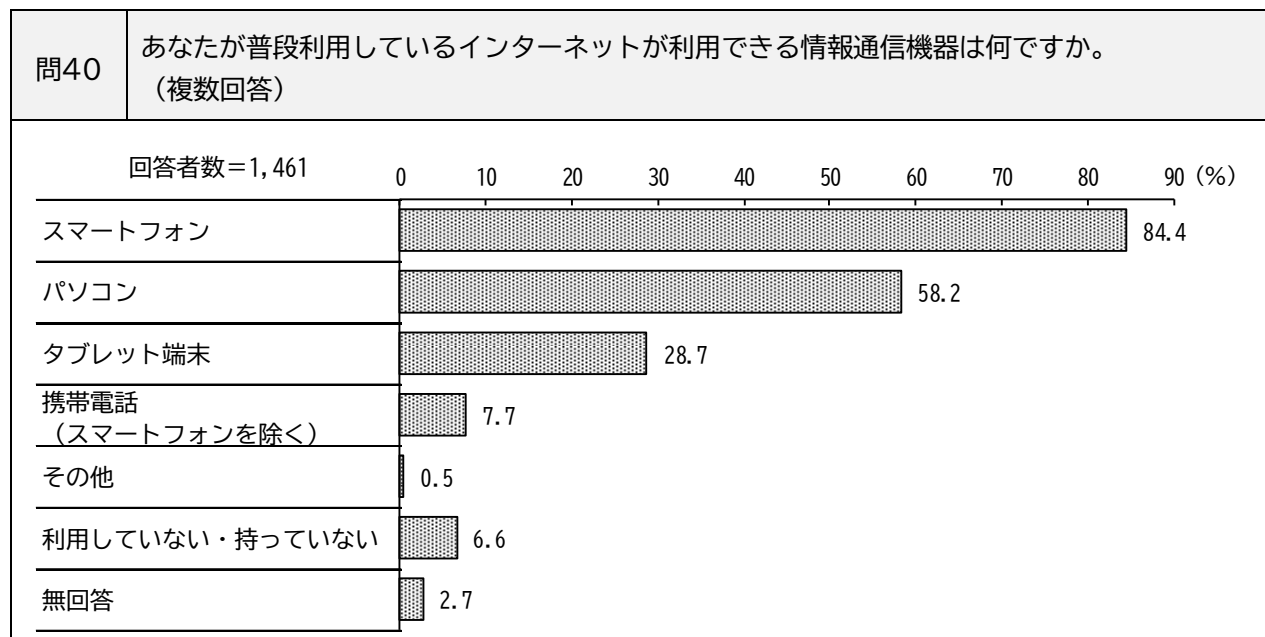


○「ラジオこうとう」を聴いたことがあるか聞いたところ、「番組の名前は知っているが、聴いたことはない」（22.9％）が2割を超え、「番組があることを、この調査で初めて知った」（71.5％）が7割を超えている。

13 DX・ICT

(1) インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況

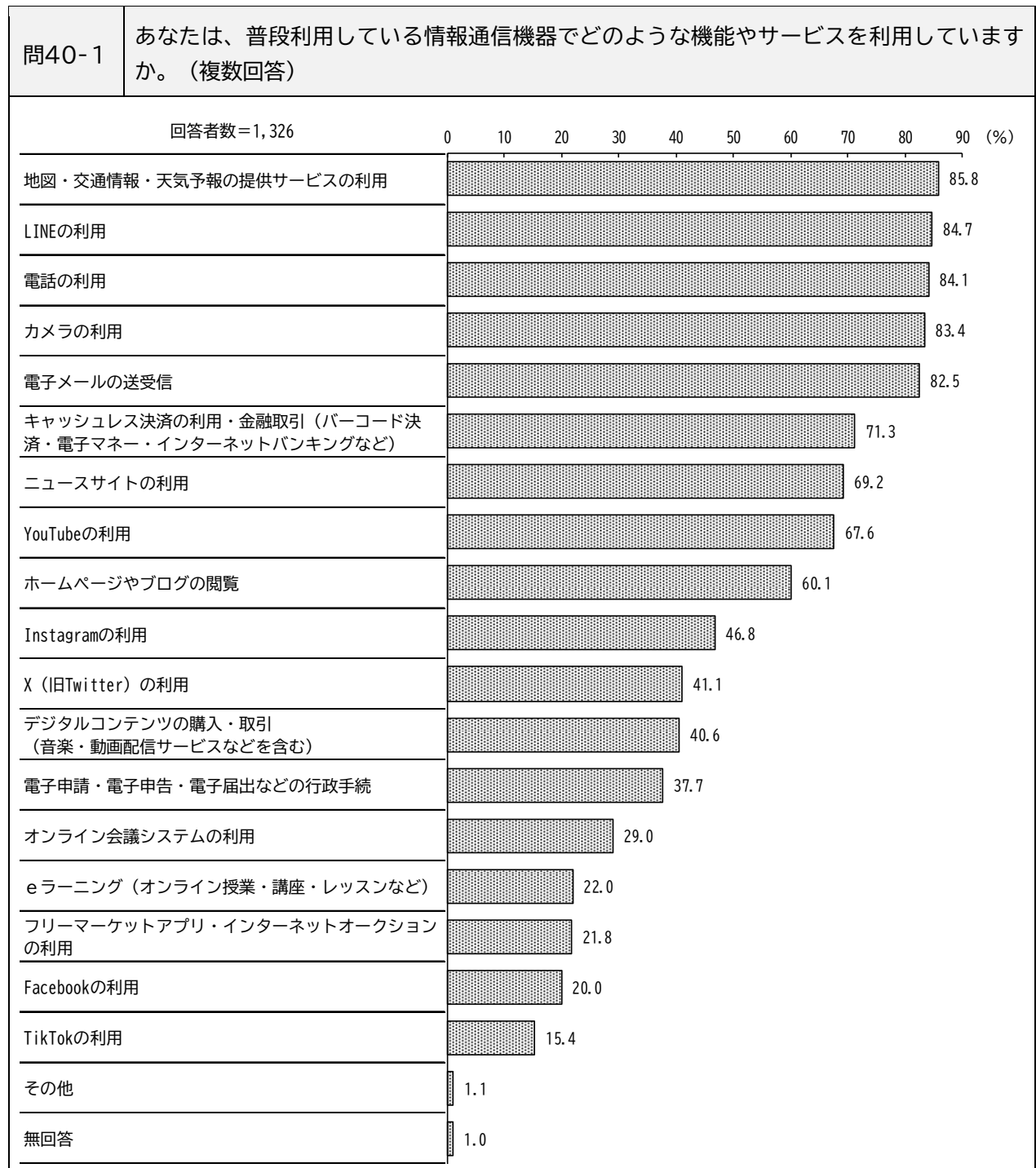
◇「スマートフォン」が8割台半ば



○インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況を聞いたところ、「スマートフォン」(84.4%)が8割台半ばで最も多く、次いで「パソコン」(58.2%)、「タブレット端末」(28.7%)と続いている。一方、「利用していない・持っていない」(6.6%)は1割未満となっている。

(2) 情報通信機器で利用している機能やサービス

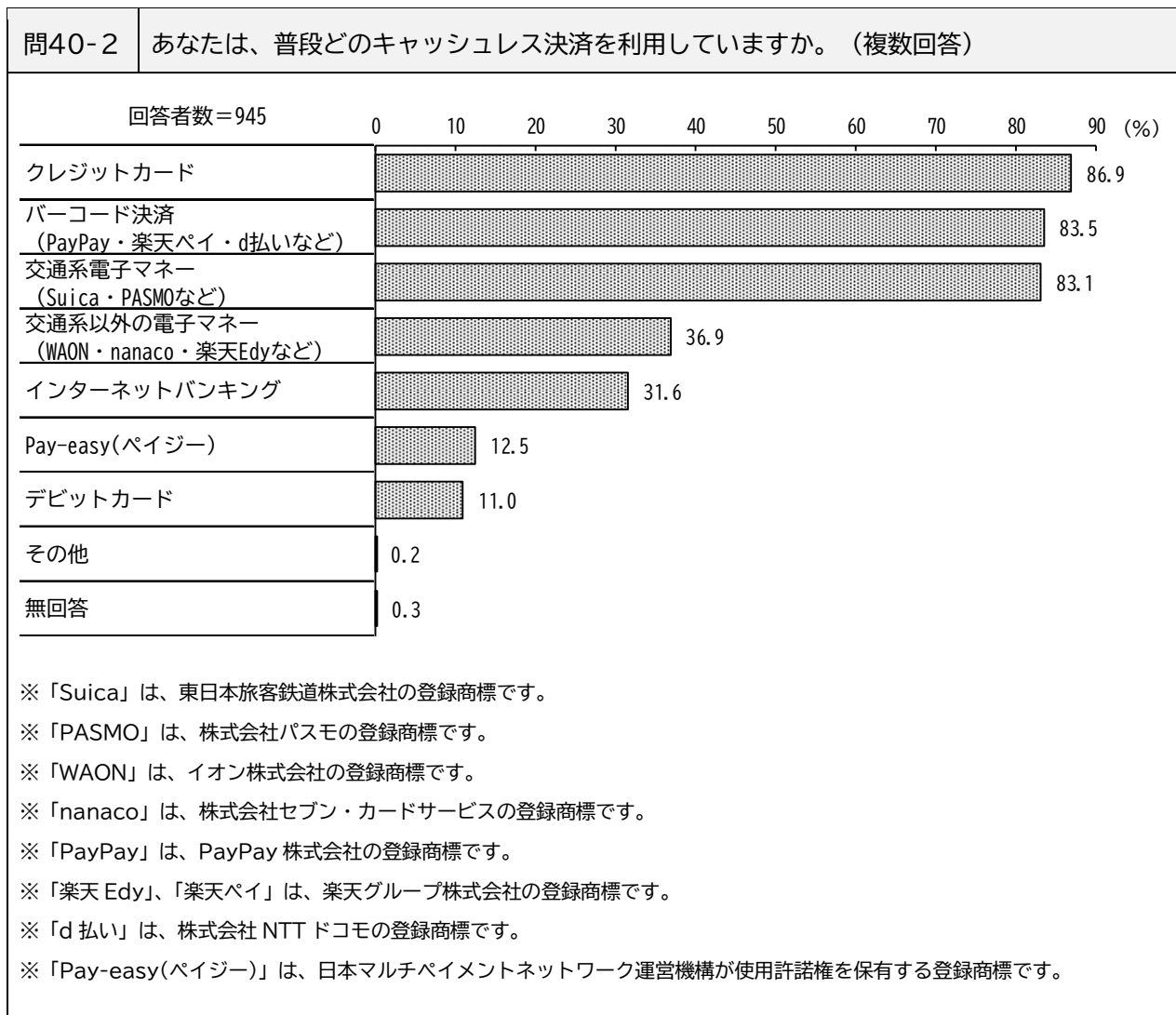
◇「地図・交通情報・天気予報の提供サービスの利用」、「LINE の利用」、「電話の利用」が8割台半ば



○インターネットが利用できる情報通信機器を利用していると答えた方（1,326 人）に、どのような機能やサービスを利用しているか聞いたところ、「地図・交通情報・天気予報の提供サービスの利用」（85.8%）、「LINE の利用」（84.7%）、「電話の利用」（84.1%）が8割台半ばとなっている。

(3) 利用しているキャッシュレス決済

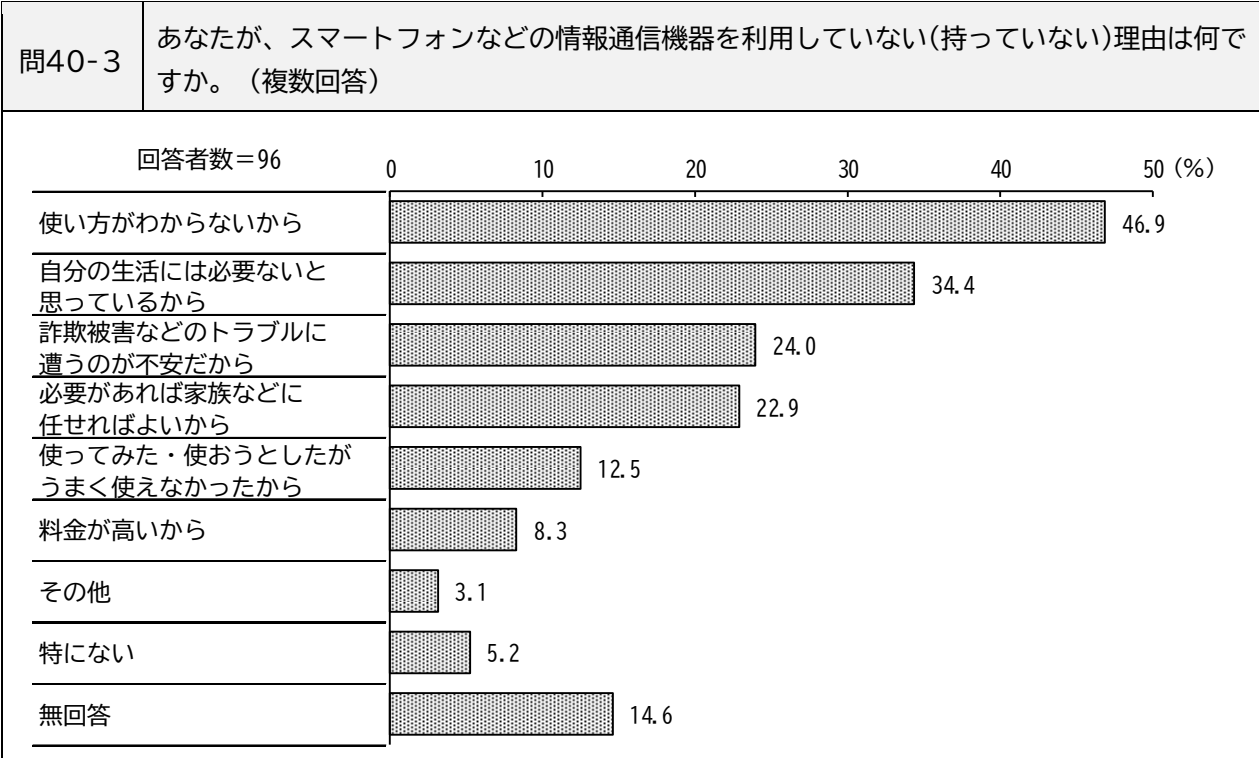
◇「クレジットカード」が9割近く



○キャッシュレス決済の利用・金融取引を利用していると答えた方（945 人）に、普段どのキャッシュレス決済を利用しているか聞いたところ、「クレジットカード」（86.9%）が9割近くで最も多く、次いで「バーコード決済（PayPay・楽天ペイ・d 払いなど）」（83.5%）、「交通系電子マネー（Suica・PASMO など）」（83.1%）と続いている。

(4) 情報通信機器を利用していない理由

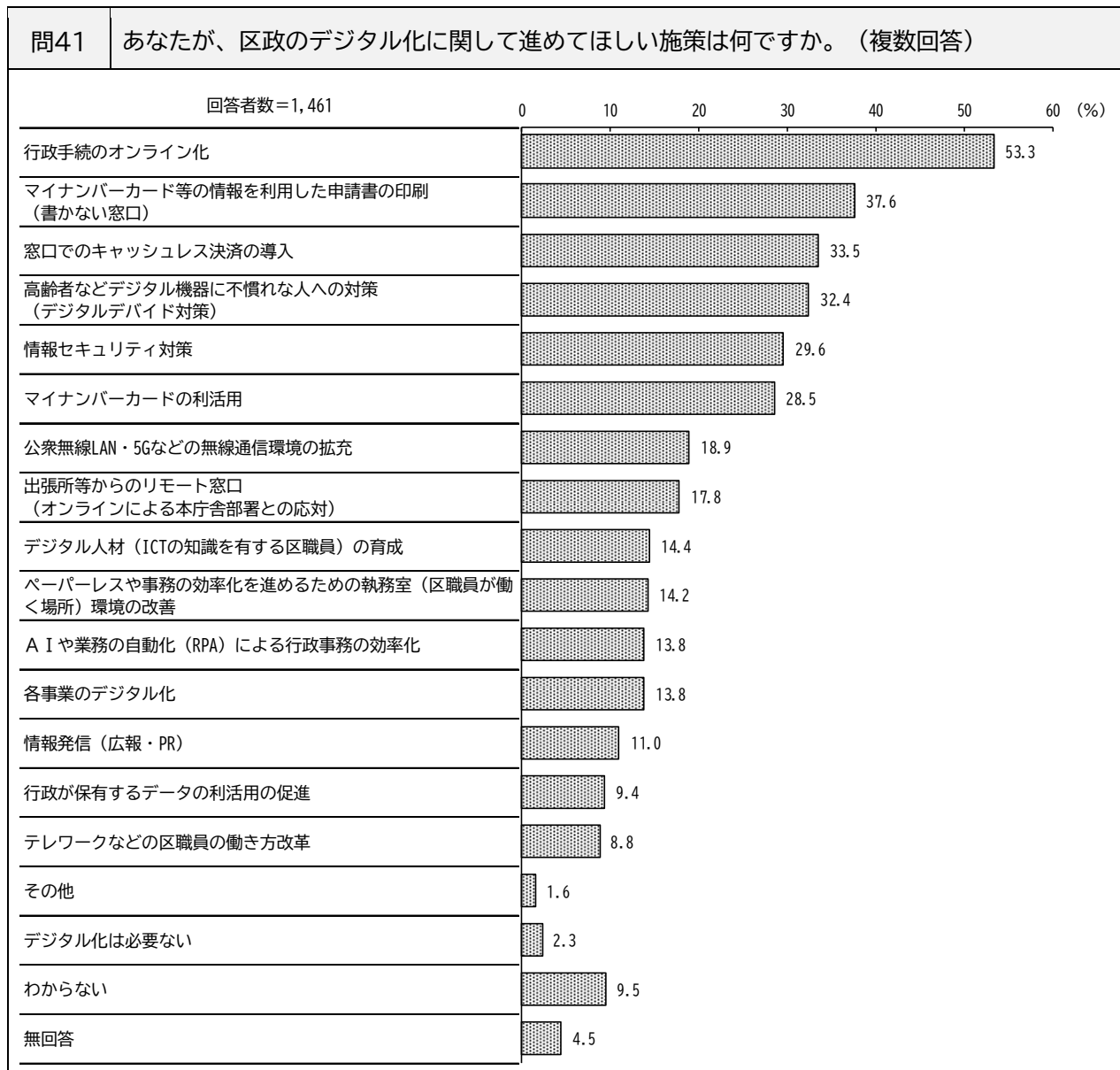
◇「使い方がわからないから」が5割近く



○インターネットが利用できる情報通信機器を利用していないまたは持っていないと答えた方（96人）に、利用していない（持っていない）理由を聞いたところ、「使い方がわからないから」（46.9%）が5割近くで最も多く、次いで「自分の生活には必要ないと思っているから」（34.4%）、「詐欺被害などのトラブルに遭うのが不安だから」（24.0%）と続いている。

(5) デジタル化を進めてほしい施策

◇「行政手続のオンライン化」が5割を超える

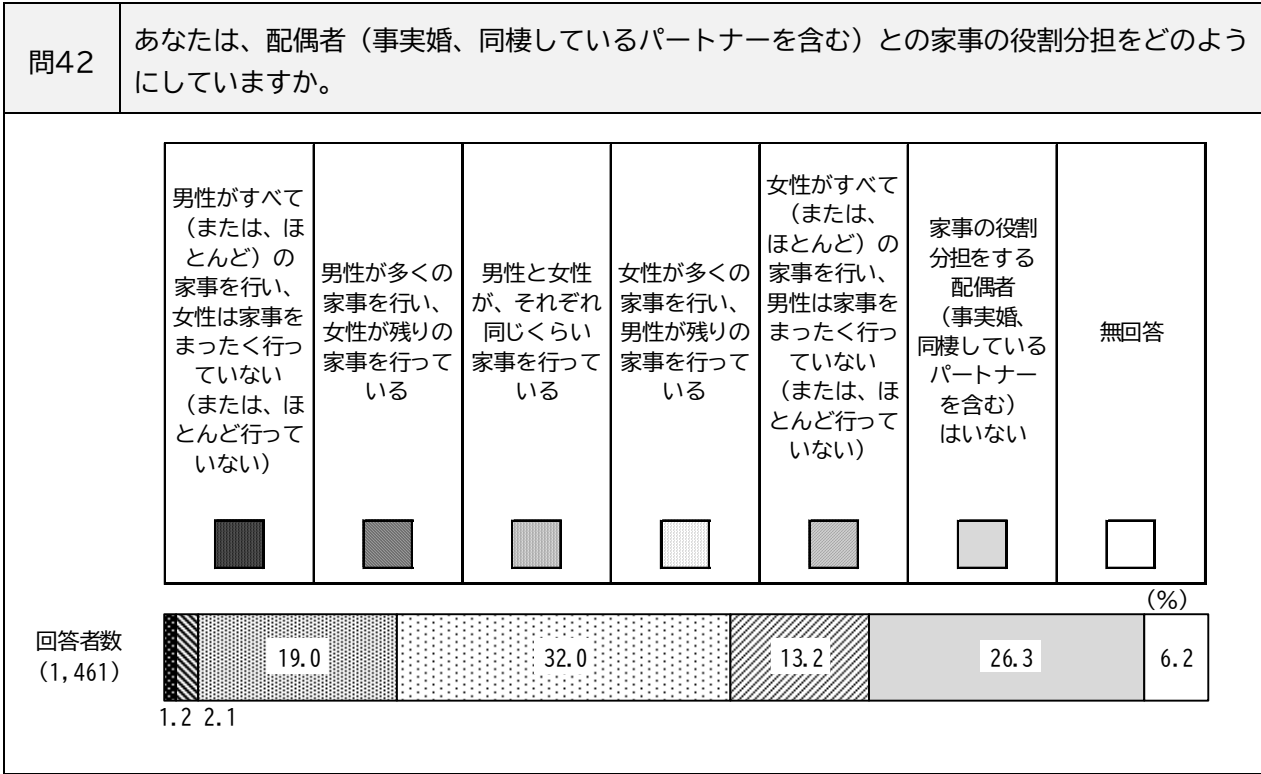


○区政のデジタル化に関して進めてほしい施策を聞いたところ、「行政手続のオンライン化」（53.3%）が5割を超えて最も多く、次いで「マイナンバーカード等の情報を利用した申請書の印刷（書かない窓口）」（37.6%）、「窓口でのキャッシュレス決済の導入」（33.5%）と続いている。

14 男女共同参画

(1) 配偶者との家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」が3割を超える

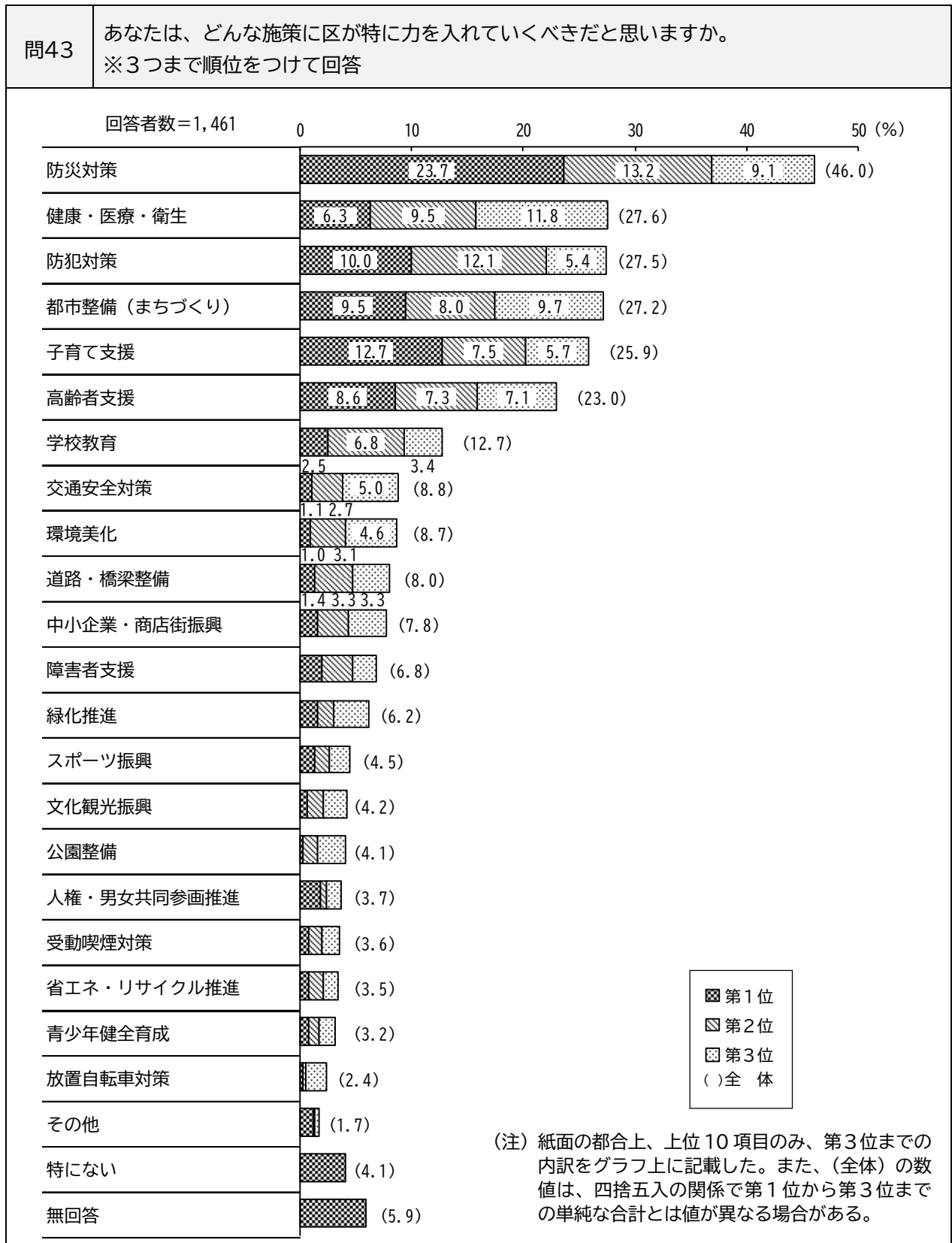


○配偶者との家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」（32.0%）が3割を超えて最も多く、次いで「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」（19.0%）、「女性がすべて（または、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（または、ほとんど行っていない）」（13.2%）と続いている。一方、「家事の役割分担をする配偶者（事実婚、同棲しているパートナーを含む）はいない」（26.3%）は2割台半ばとなっている。

15 施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割台半ば



○区に対して特に力を入れてほしいものを、第1位から第3位までを累計した《全体》でみると、「防災対策」(46.0%)が4割台半ばで最も多く、次いで「健康・医療・衛生」(27.6%)、「防犯対策」(27.5%)、「都市整備(まちづくり)」(27.2%)と続いている。